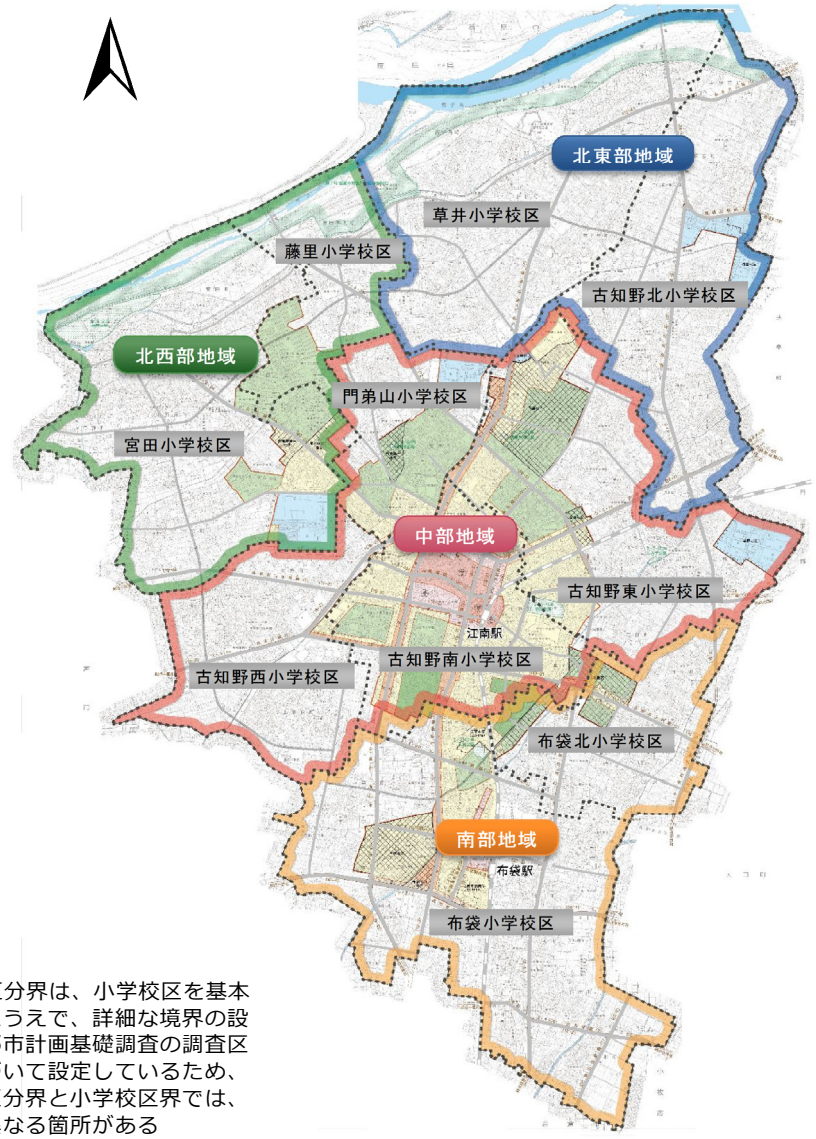
第４章　地域別構想

地域別構想は、地域のつながりや本市の特色に考慮しつつ、地形などの自然的条件、土地利用の状況、幹線道路等の交通軸、日常生活上の交流の範囲などを考慮するとともに、施策を位置づけるうえで適切なまとまりのある範囲となることに配慮し、身近な生活圏である小学校区を最小単位とした、以下の４地域に区分しました。



(注)地域区分界は、小学校区を基本としたうえで、詳細な境界の設定は都市計画基礎調査の調査区に基づいて設定しているため、地域区分界と小学校区界では、若干異なる箇所がある

■地域区分図

地域の基本データ

地域名	小学校区名	人口（人）	面積（ha）
北東部地域	古知野北・草井	14,825	約 779
北西部地域	宮田・藤里	18,774	約 574
中部地域	古知野東・古知野西・古知野南・門弟山	44,176	約 972
南部地域	布袋・布袋北	20,584	約 695
合計	―	98,359	約 3,020

資料：国勢調査（H27）、都市計画基礎調査（H28）

1　北東部地域

北東部地域は、木曽川左岸沿いにすいとぴあ江南やフラワーパーク江南が整備され、市民のうるおいと憩いの場になっています。地域東部の工業地域を除いて、市街化調整区域となっており、優良な田園地域が広がっているほか、既存集落が点在しています。

フラワーパーク江南

すいとぴあ江南

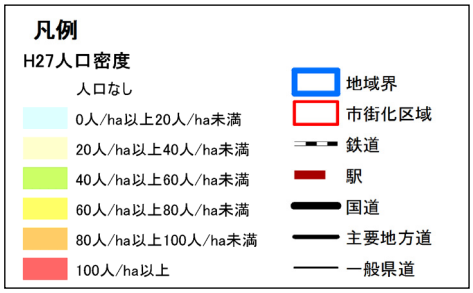
音楽寺

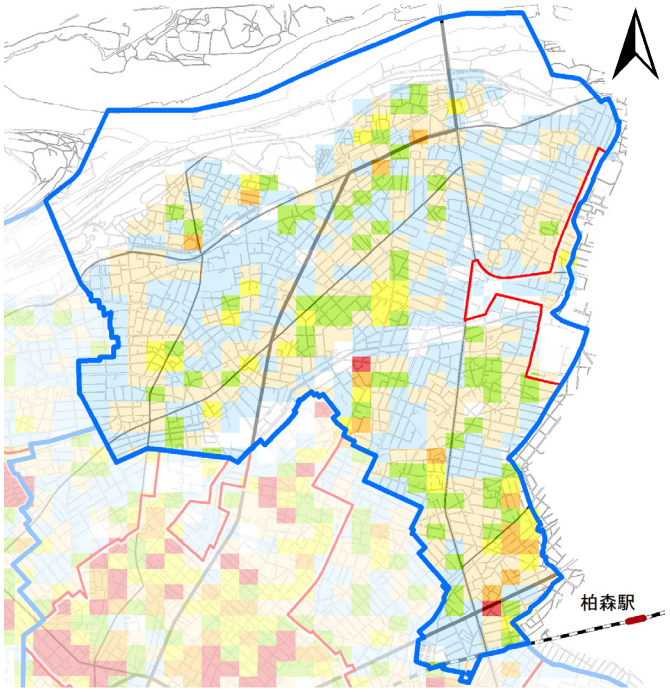
（１）地域の現況

１）人口などの状況

- H17 からH27 までの 10 年間で市総人口は 0.7%減少している一方で、北東部地域は 0.4%増加しています。また、高齢化率は 10 年間で 11.1%増加しています。
- 人口密度は、全体的に低くなっていますが、地域南部で一部高い地域が存在しています。

		H27	H17
人口	北東部地域	14,825 人（＋0.4%）	14,773 人
	市全域	98,359 人（▲0.7%）	99,055 人
人口密度	北東部地域	19.0 人/ha（0.0%）	19.0 人/ha
	市全域	32.6 人/ha（▲0.6%）	32.8 人/ha
高齢化率	北東部地域	28.8%（＋11.1%）	17.7%
	市全域	26.5%（＋8.4%）	18.1%



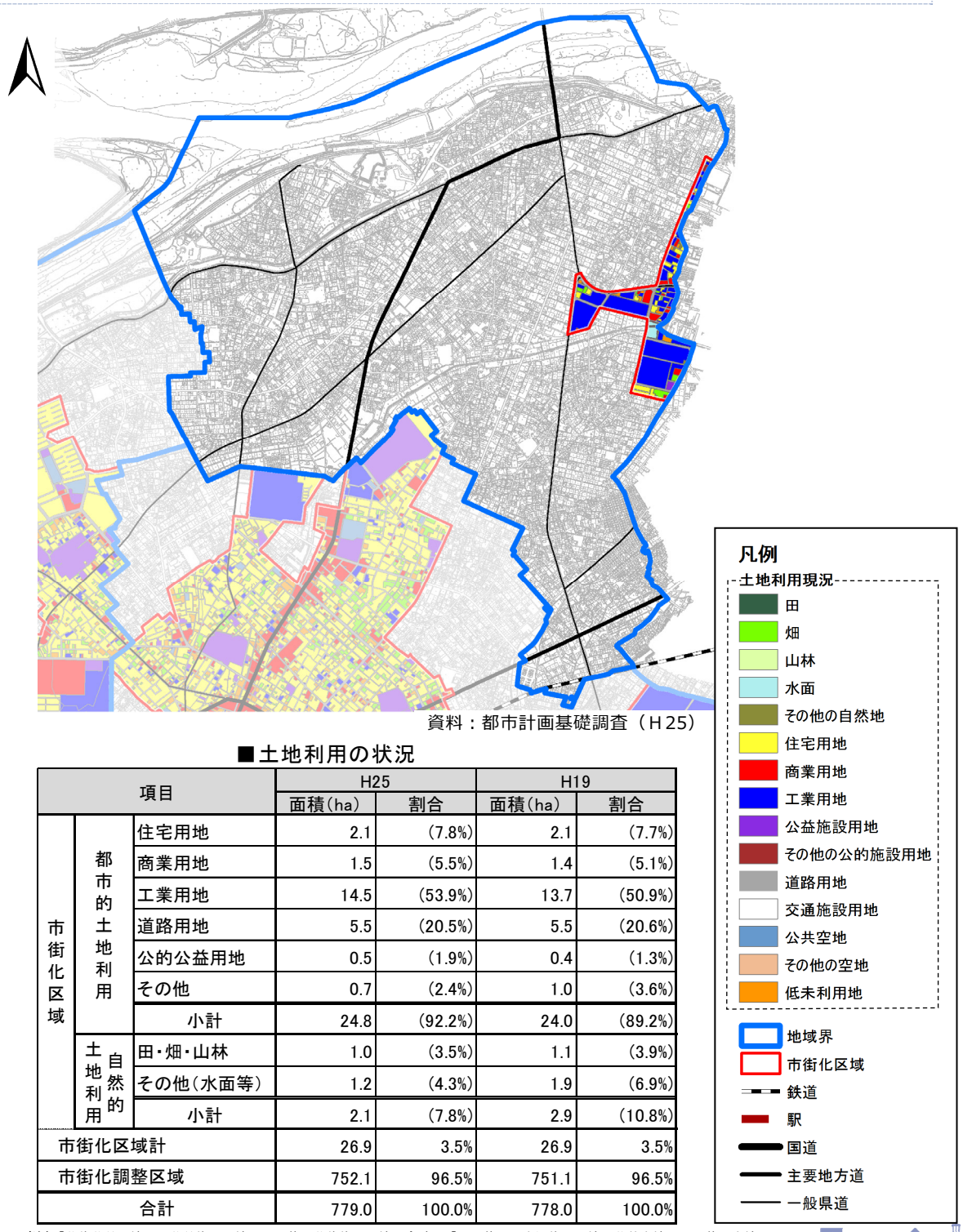


資料：国勢調査（H27）

■人口密度

2）土地利用状況

- 市街化調整区域が地域内の約 97%の割合を占め、田畑や住宅が全体的に広がっています。
- 地域東部の市街化区域では約 54%が工業用地となっているほか、未利用地がほぼ残存していない状況です。また、過去からの推移をみると、自然的土地利用が減少しており、工業用地が増加しています。



資料：都市計画基礎調査（H25）

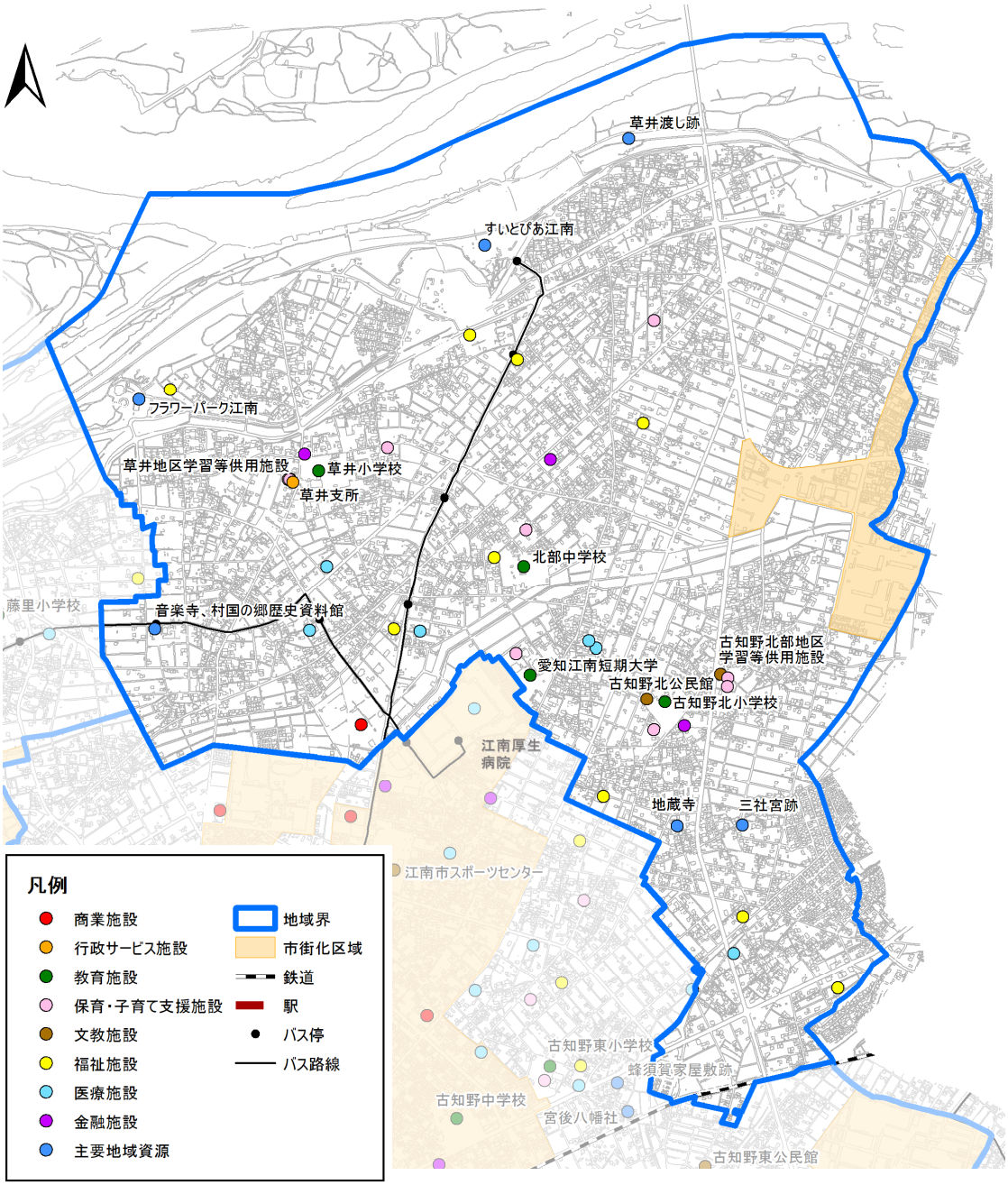
■土地利用の状況

項目			H25 面積(ha)	H25 割合	H19 面積(ha)	H19 割合
市街化区域	都市的土地利用	住宅用地	2.1	(7.8%)	2.1	(7.7%)
		商業用地	1.5	(5.5%)	1.4	(5.1%)
		工業用地	14.5	(53.9%)	13.7	(50.9%)
		道路用地	5.5	(20.5%)	5.5	(20.6%)
		公的公益用地	0.5	(1.9%)	0.4	(1.3%)
		その他	0.7	(2.4%)	1.0	(3.6%)
		小計	24.8	(92.2%)	24.0	(89.2%)
	自然的土地利用	田・畑・山林	1.0	(3.5%)	1.1	(3.9%)
		その他（水面等）	1.2	(4.3%)	1.9	(6.9%)
		小計	2.1	(7.8%)	2.9	(10.8%)
市街化区域計			26.9	3.5%	26.9	3.5%
市街化調整区域			752.1	96.5%	751.1	96.5%
合計			779.0	100.0%	778.0	100.0%

（注）「公的公益用地」…公益施設用地、その他の公的施設用地の合計　「その他」…交通施設用地、公共空地、その他の空地、低未利用地の合計　「その他（水面等）」…水面、その他の自然地の合計

3）施設分布状況

・西部の草井支所周辺や東部の古知野北公民館周辺に、教育施設や保育・子育て支援施設など、一定の集積がみられます。
・市内で唯一の大学である、愛知江南短期大学が立地しています。
・地域内に鉄道駅はありませんが、すいとぴあ江南までの区間や隣接する北西部地域から江南厚生病院の区間において、名鉄バスが運行されています。

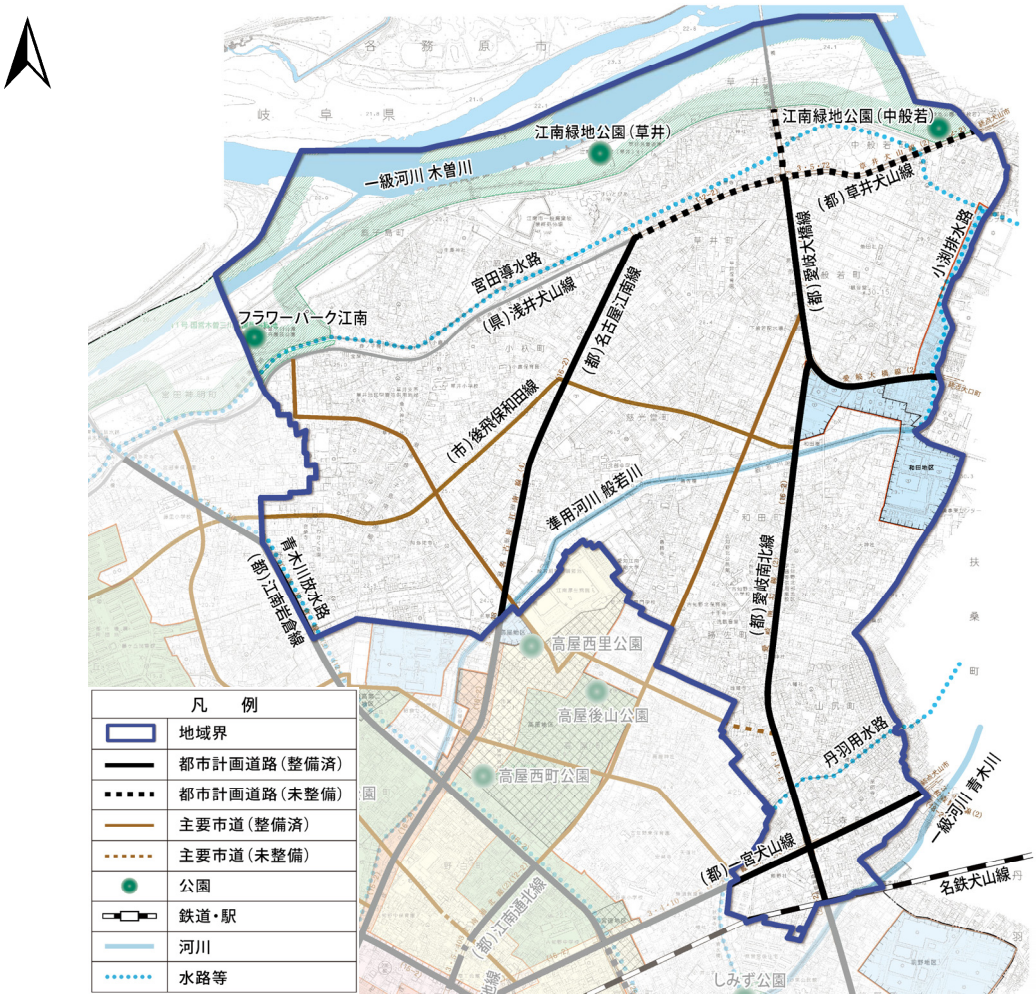


資料：全国大型小売店総覧 2019、スーパーマーケット総覧 2015、江南市資料（H30）、
江南市ホームページ［施設ガイド］、尾北医師会ホームページ（H30）、国土数値情報（H29）、
ｉタウンページ（H30）、名鉄バス路線図（H30）

■施設分布状況

４）主な都市基盤の状況

・都市計画道路は、地域北東部に(都)名古屋江南線などに未整備区間が存在しており、地域内の整備率は約 79%となっています。
・本市を代表する観光施設であるフラワーパーク江南や江南緑地公園などの比較的規模が大きい公園が木曽川沿いに整備されています。



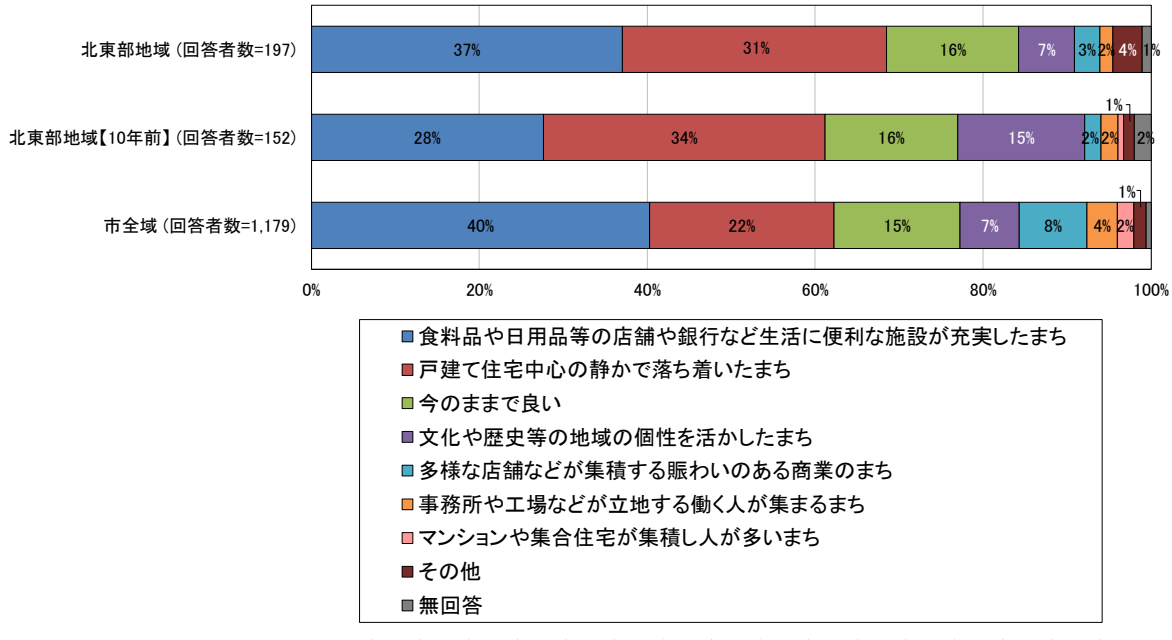
■主な都市基盤の状況

主要施設			
道　路	・(都)一宮犬山線 ・(都)名古屋江南線 ・(都)江南岩倉線	・(都)愛岐大橋線 ・(都)愛岐南北線 ・(都)草井犬山線	・(県)浅井犬山線 ・(市)後飛保和田線
公　園	・江南緑地公園（草井）	・江南緑地公園（中般若）	・フラワーパーク江南
河川など	・一級河川木曽川 ・一級河川青木川 ・準用河川般若川	・宮田導水路 ・丹羽用水路	・青木川放水路 ・小渕排水路

（２）地域のニーズ

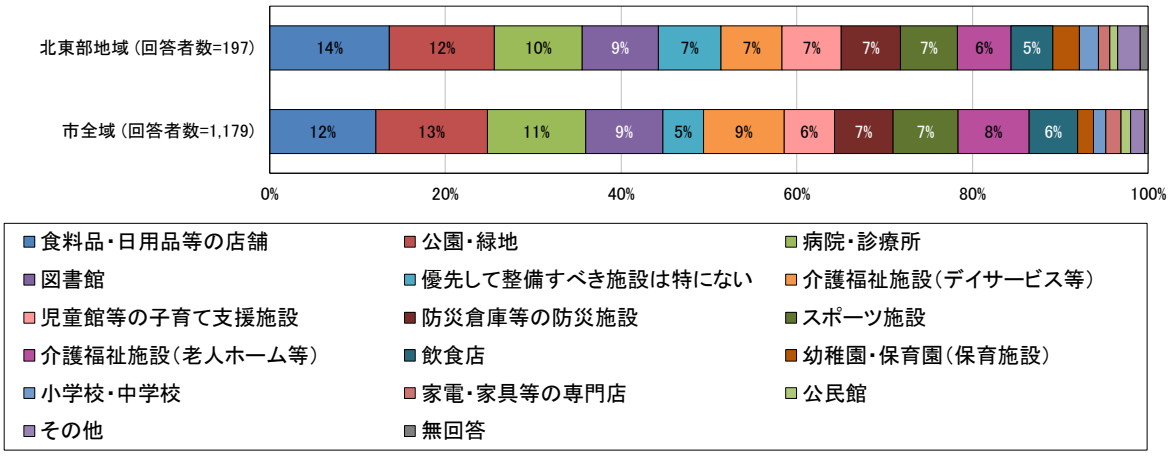
◆居住する小学校区の、今後（おおむね 10 年後）の「まち」の姿に関する意向

・「食料品や日用品等の店舗や銀行など生活に便利な施設が充実したまち」が 37%と最も高い意向を示しています。市全域の意向と比べると「戸建て住宅中心の静かで落ち着いたまち」を望む意向が 31%と高くなっています。
・10 年前と比べると、「食料品や日用品等の店舗や銀行など生活に便利な施設が充実したまち」に関する意向が高くなっている一方で、「戸建て住宅中心の静かで落ち着いたまち」「文化や歴史等の地域の個性を活かしたまち」を望む意向は低くなっています。



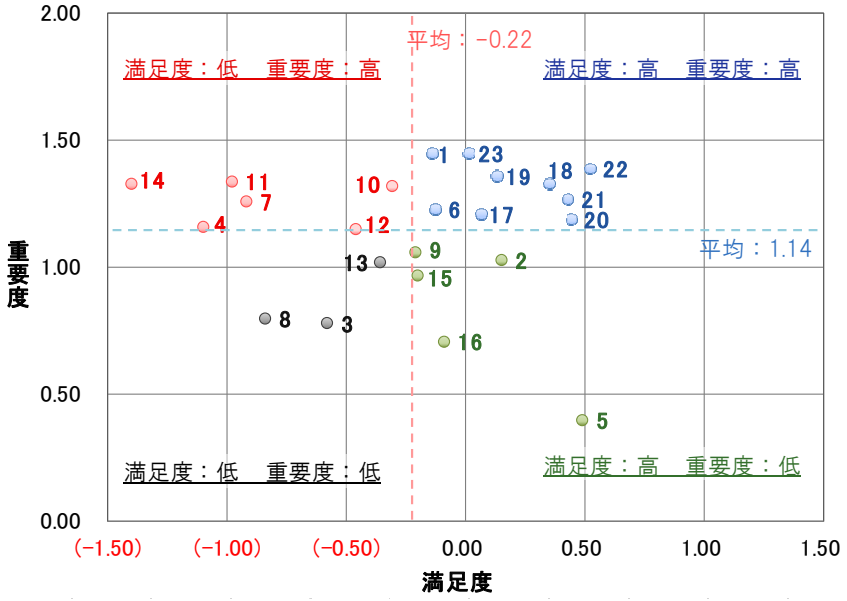
◆居住する小学校区に優先して整備すべきだと思う施設に関する意向

・「食料品・日用品等の店舗」、「公園・緑地」、「病院・診療所」の順に整備すべき施設の意向が高く、その傾向は市全域と同様の傾向となっています。



◆お住まいの小学校区の生活環境に関する、現状の『満足度』と今後の『重要度』について

・満足度が低く、重要度が高い項目（優先度が高い）は「駅前や市街地が整備され、人々が集いにぎわっている」「駅周辺等の鉄道やバスで行きやすい場所に商業施設が適切に配置され、買物しやすい環境となっている」「自転車のための交通基盤が整備され、安全で容易に移動できている」「バス等の公共交通網が充実し、クルマがなくてもスムーズに移動できている」などとなっています。



【低い】 現状の満足度 【高い】

【高い】 今後の重要度 【低い】

満足度：低　重要度：高 4．駅前や市街地が整備され、人々が集いにぎわっている 7．駅周辺等の鉄道やバスで行きやすい場所に商業施設が適切に配置され、買物しやすい環境となっている 10．身近な生活道路の整備がされ、安全に通行できている 11．自転車のための交通基盤が整備され、安全で容易に移動できている 12．市街地や主要施設周辺に駐車場が適切に配置されている 14．バス等の公共交通網が充実し、スムーズに移動できている	**満足度：高　重要度：高** 1．若者が江南市で生活し続けられる 6．幹線道路沿道の商業施設が適切に配置されている 17．下水道や浄化槽が整備され、衛生的な生活を送っている 18．河川が整備され、安心して暮らしている 19．防災対策が進み、安心・安全に生活ができている 20．幼稚園等が充実し、子育てがしやすい環境になっている 21．学校施設や設備が整備され、教育環境が整っている 22．医療施設が整備され、安心して医療サービスを受けられる 23．介護福祉施設が整備され、介護福祉サービスを受けられる
満足度：低　重要度：低 3．工業地や工業団地が確保され、江南市の産業を牽引している 8．市外からの来訪者が楽しめる空間が形成されている 13．市街地や主要施設周辺に駐輪場が適切に配置されている	**満足度：高　重要度：低** 2．住宅環境や公営住宅が整備されている 5．適度な農地があり、うるおいのある空間を形成している 9．道路が整備され、都市間をスムーズに移動できている 15．身近な公園や緑地が整備されている 16．住宅の庭や道路などのまちかどや公園等の緑化が進んでいる

（各項目の点数化について）
　満足度は、項目ごとに「満足」を＋２点、「やや満足」を＋１点、「やや不満」を－１点、「不満」を－２点とし、重要度は、項目ごとに「重要」を＋２点、「やや重要」を＋１点、「あまり重要ではない」を－１点、「重要ではない」を－２点とし、各項目についての満足度と重要度それぞれを点数化したうえで、全項目の平均値を評価軸として、散布図を作成

（３）まちづくりの課題

北東部地域の現況調査における地域特性や市民意向調査による地域のニーズなどを踏まえ、まちづくりの課題を以下のとおり整理します。

≪土地利用≫

既存の居住環境の維持

市全体では人口減少期を迎えている中、北東部地域は増加傾向を保っています。中でも、地域南部に立地する愛知江南短期大学周辺については、比較的多くの施設が立地しているなど、生活利便性が確保されていることから、今後も現在の居住環境を維持していくことが必要です。

その他の田園地域に分布する住宅地についても、新たな開発を抑制し、農地と既存集落が共生した土地利用の保全に努め、既存の居住環境を維持していくことが必要です。

良好な営農環境の保全

市街化調整区域に広がる農用地区域を中心とした一団の農地は、本市の農業基盤としての役割だけでなく、緑化の機能や防災機能の観点からも適切な保全が必要です。

≪施設整備≫

生活を支える交通基盤の確保

地域の北側にある愛岐大橋は、地域と近接市をつなぐ重要な路線であり、交通量が多い状況にあります。そのため、周辺道路も含め安全・快適な交通環境の確保が必要です。

また、北西部地域や中部地域を結ぶ路線バスが運行し、いこまいＣＡＲでその他の地域をカバーしている状況であることから、今後も公共交通サービスの維持確保を図る必要があります。

地域に交流をもたらすレクリエーション機能の充実

北部の木曽川沿いに位置するフラワーパーク江南は、地域住民だけでなく広域的に利用されており、多くの交流が期待できる拠点となっていることから、今後も、機能の維持及び活用を図っていく必要があります。

また、遊歩道・サイクリングロードは、隣接市町につながる広域的な健康・レクリエーションの場として、機能の維持・向上を図っていく必要があります。

身近にうるおいと憩いを提供できる交流空間の形成

子育て世代に対する遊び場の提供や健康志向の高まりによる公園に対するニーズの多様化への対応に向け、既存公園の利用促進や身近な公園緑地等の整備を検討することなどが必要となります。

≪自然環境及び都市環境・都市景観≫

豊かな自然が感じられる環境の保全

木曽川沿いの緑や地域に広がる農地は、木曽川の恵みを感じられる貴重な地域資源となっていることから、地域住民にとって誇れる自然環境として、それらを身近に感じられる空間の形成や、景色の保全に向けた取り組みが必要となります。

≪都市防災≫

安心・安全な居住環境の提供

一部の地域において豪雨時に浸水被害を受けた実績があることから、常態化しつつある局地的大雨や集中豪雨による浸水被害を軽減するためにも、河川改修などの被害軽減に向けた基盤整備を図っていくことが必要となります。

（４）まちづくりの方針

北東部地域における、まちづくりの方針を以下のとおり整理します。

１）まちづくり基本目標

❖水と緑の恵みを身近に感じる自然豊かなまちづくり❖

地域北部には木曽川が流れ、その南側には豊かな緑の中に居住地が広がっている地域です。それら既存の住宅地については、今後も良好な居住環境を維持しつつ、地域コミュニティが維持できる安心・安全なまちづくりをめざします。また、フラワーパーク江南をはじめとした木曽川沿いのレクリエーション機能の活用を図ることで、地域資源を活かした交流できるまちづくりをめざします。

２）分野別の方針

①土地利用の方針

◇地域北部の木曽川沿いに位置する遊歩道・サイクリングロード、フラワーパーク江南は、健康・レクリエーションの場として、機能の維持及び活用を図ります。また、木曽川沿いの緑地については、樹林地、草地、桜並木などの保全を図ります。

◇地域北東部に公共公益施設用地として、広域処理する新ごみ処理施設や災害時の防災拠点などの土地利用の形成を図ります。

◇田園集落地については、既存の住宅環境を維持しつつ、周辺の緑化機能と共生する土地利用の形成を図ります。

②施設整備の方針

【道路・公共交通等の方針】

◇路線バスは、中心拠点である江南駅や地域拠点を結ぶ路線を中心として、運行サービスの維持確保を図ります。また、路線バスでカバーできない地域については、いこまいＣＡＲにより市内全域を移動できる環境を維持確保します。

◇幹線道路である(都)名古屋江南線については、接続する隣接市と連携を図り、整備を促進します。

【公園緑地等の方針】

◇フラワーパーク江南は、広域的なレクリエーションの場として機能する当該施設の魅力を高め、より一層の利用が図られるよう、公園整備を促進します。

◇木曽川沿いの樹林地や草地の保全を図るとともに、木曽川沿いに位置する遊歩道・サイクリングロードについては、木曽川の自然を楽しむことができるレクリエーションのネットワークを形成しており、適切な維持管理と利用の促進を図ります。

◇宮田導水路の遊歩道は、地域のふれあい・コミュニケーションの場として新たなネットワークが形成されるように、整備を推進します。

【河川の方針】

◇国が管理する木曽川や、県が管理している青木川の整備を促進します。

◇市管理の準用河川般若川の整備を推進し、適切に維持管理します。

【公共公益施設の方針】

◇安心･安全なごみ処理の実現に向け､事業主体である尾張北部環境組合との連携により、広域的な処理をする新ごみ処理施設の整備を推進します。

③自然環境の保全及び都市環境形成の方針

◇木曽川及び河川沿いの樹林地や草地は、優れた自然環境を有するとともに多様な生物の生息地として機能していることから、総合的な保全を図ります。

◇江南緑地公園をはじめとする公園緑地等に加え、道路及び公共施設などの緑化を推進するとともに、市民や事業者が取り組む緑化活動への支援を推進し、民有地緑化の促進を図ることで、緑豊かでゆとりとうるおいのある都市環境の形成に努めます。

④都市景観形成の方針

◇木曽川は、本市を代表する自然景観であり、木曽川の水の流れと緑あふれる河川敷がつくりだす景観の保全・活用を図ります。

⑤都市防災の方針

◇(都)名古屋江南線などの緊急輸送道路及び優先的に通行を確保する道路に指定されている道路沿道の建築物については、災害時における避難路の確保に向けて、耐震化を促進します。

◇市街地の浸水被害の抑制に向けて、木曽川などの河川改修や雨水貯留浸透施設の整備を促進するとともに、保水機能を有する田園集落地の一団の農地の保全に努めます。

3）まちづくり方針図

土地利用
暮らしと安全のために必要な公共公益施設用地として、適切な土地利用の形成

自然環境保全
優れた自然環境、多様な生物の生息地として、木曽川沿いの樹林地や草地の保全

道路・公共交通等
幹線道路である(都)名古屋江南線の整備を促進

公共公益施設
事業主体である尾張北部環境組合との連携により、新ごみ処理施設の整備の推進

土地利用
木曽川沿いに位置する遊歩道・サイクリングロードの環境の保全、機能の維持及び活用

公園緑地等
フラワーパーク江南の整備の促進

公園緑地等
宮田導水路の遊歩道の整備の推進

凡　例					
	地域拠点		公園		鉄道・駅
	工業地		文教施設		河川・水路
	田園集落地		行政サービス施設		遊歩道・サイクリングロード
	レクリエーションエリア	小 中 大	教育施設		木曽川沿いの緑地
			国道・主要地方道 ※点線は未整備区間		
	暮らしと安全のエリア		一般県道・市道 ※点線は未整備区間		

2 北西部地域

北西部地域は、木曽川左岸沿いにフラワーパーク江南や蘇南公園が広がり、その南側に江南団地などの住宅地のほか、大型商業施設や大規模工場が立地しています。

また、市街地には、江南藤まつりが開催される曼陀羅寺公園が立地しています。そのほか、地域の西には、一団で老人福祉施設、障害者福祉施設などが立地しています。

蘇南公園

江南団地

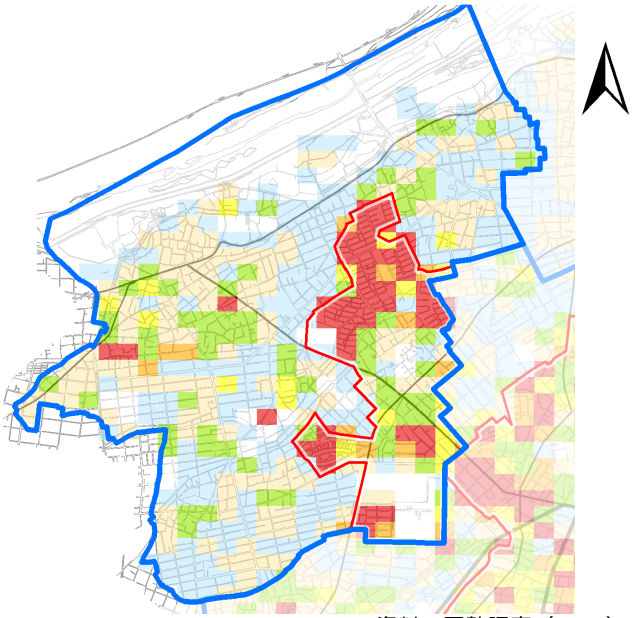
曼陀羅寺公園（藤まつり）

（1）地域の現況

1）人口などの状況

- H17 からH27 までの 10 年間で市総人口は 0.7%減少している中、北西部地域では 10.8%減少しています。また、高齢化率は 10 年間で 11%増加しています。
- 人口密度は、江南団地や松竹住宅などの市街化区域で密度が高くなっています。

		H27	H17
人口	北西部地域	18,774 人（▲10.8%）	21,049 人
	市全域	98,359 人（▲0.7%）	99,055 人
人口密度	北西部地域	32.7 人/ha（▲10.9%）	36.7 人/ha
	市全域	32.6 人/ha（▲0.6%）	32.8 人/ha
高齢化率	北西部地域	29.4%（＋11.0%）	18.4%
	市全域	26.5%（＋8.4%）	18.1%

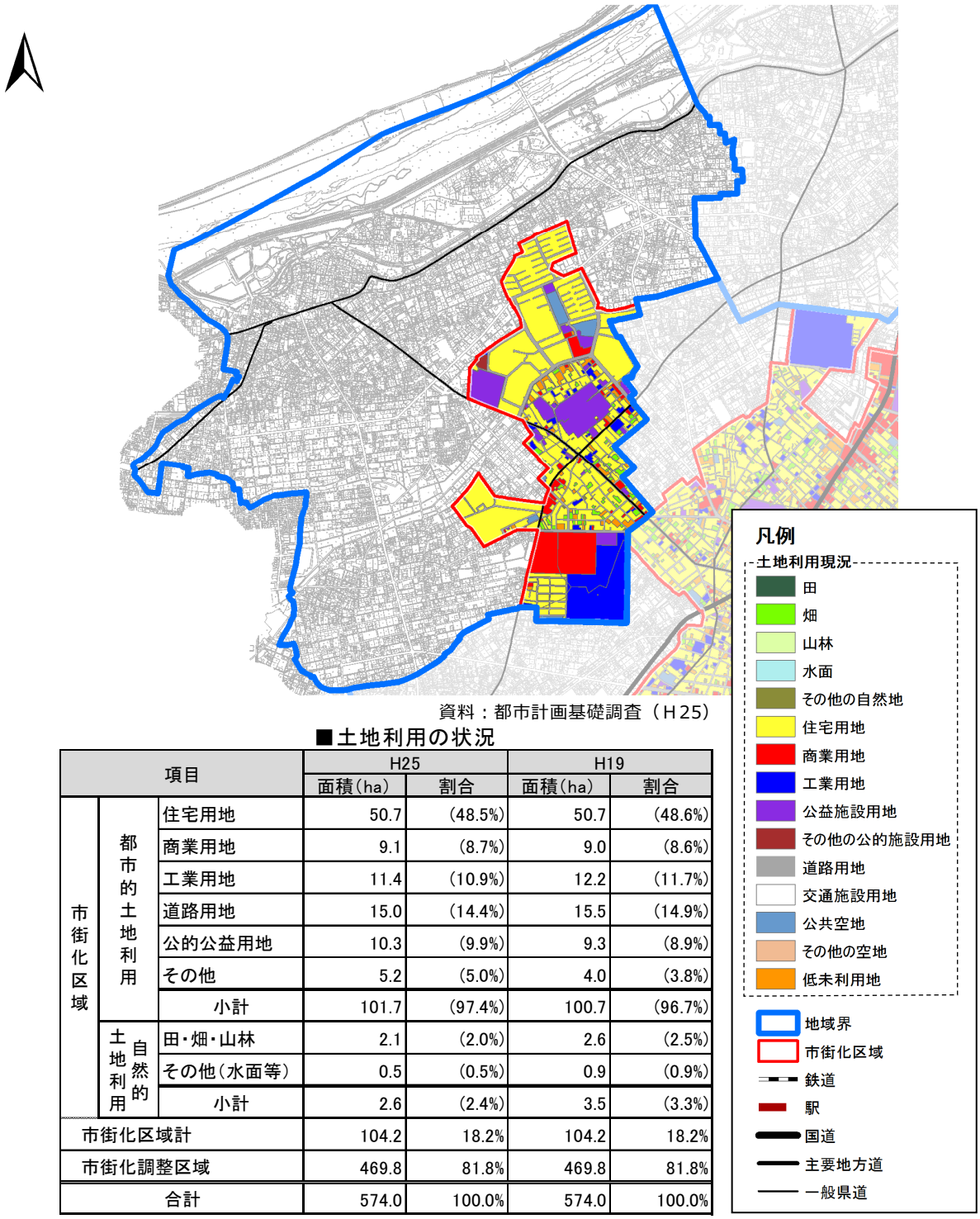


資料：国勢調査（H27）

■人口密度

2）土地利用状況

・市街化区域が約 18%、市街化調整区域が約 82%の割合となっています。
・市街化区域では、住宅用地としての利用が約半数と最も多くなっており、地域南部の商業施設や工場の部分が商業用地や工業用地の土地利用となっています。
・過去からの推移をみると、自然的土地利用や工業用地などに若干の変化がみられますが、全体的に土地利用の変化は少ない状況です。
・市街化調整区域では、田畑や住宅が全体的に広がっています。



資料：都市計画基礎調査（H25）

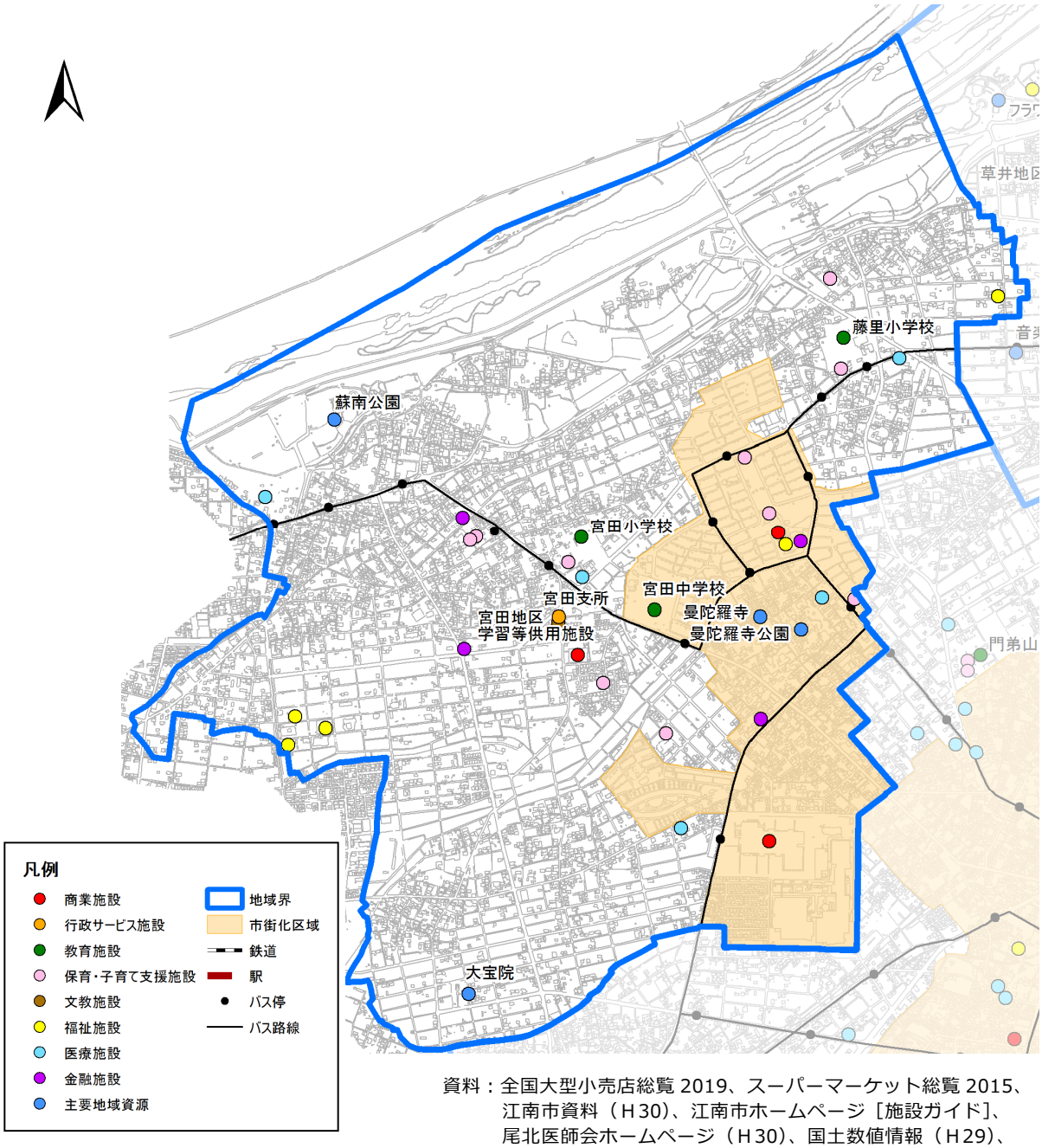
■土地利用の状況

項目			H25 面積(ha)	H25 割合	H19 面積(ha)	H19 割合
市街化区域	都市的土地利用	住宅用地	50.7	(48.5%)	50.7	(48.6%)
		商業用地	9.1	(8.7%)	9.0	(8.6%)
		工業用地	11.4	(10.9%)	12.2	(11.7%)
		道路用地	15.0	(14.4%)	15.5	(14.9%)
		公的公益用地	10.3	(9.9%)	9.3	(8.9%)
		その他	5.2	(5.0%)	4.0	(3.8%)
		小計	101.7	(97.4%)	100.7	(96.7%)
	自然的土地利用	田・畑・山林	2.1	(2.0%)	2.6	(2.5%)
		その他（水面等）	0.5	(0.5%)	0.9	(0.9%)
		小計	2.6	(2.4%)	3.5	(3.3%)
市街化区域計			104.2	18.2%	104.2	18.2%
市街化調整区域			469.8	81.8%	469.8	81.8%
合計			574.0	100.0%	574.0	100.0%

（注）「公的公益用地」…公益施設用地、その他の公的施設用地の合計　「その他」…交通施設用地、公共空地、その他の空地、低未利用地の合計
「その他（水面等）」…水面、その他の自然地の合計

3）施設分布状況

・地域東側の市街化区域内において、商業、保育・子育て支援施設などが立地しています。市街化調整区域においても、宮田支所周辺で商業、教育、医療施設など多様な施設の集積がみられます。
・地域西部に福祉施設がまとまって立地しています。
・地域内に鉄道駅はありませんが、江南団地などの地域内の主要地点と江南駅を結ぶ路線を中心に名鉄バスが運行されています。

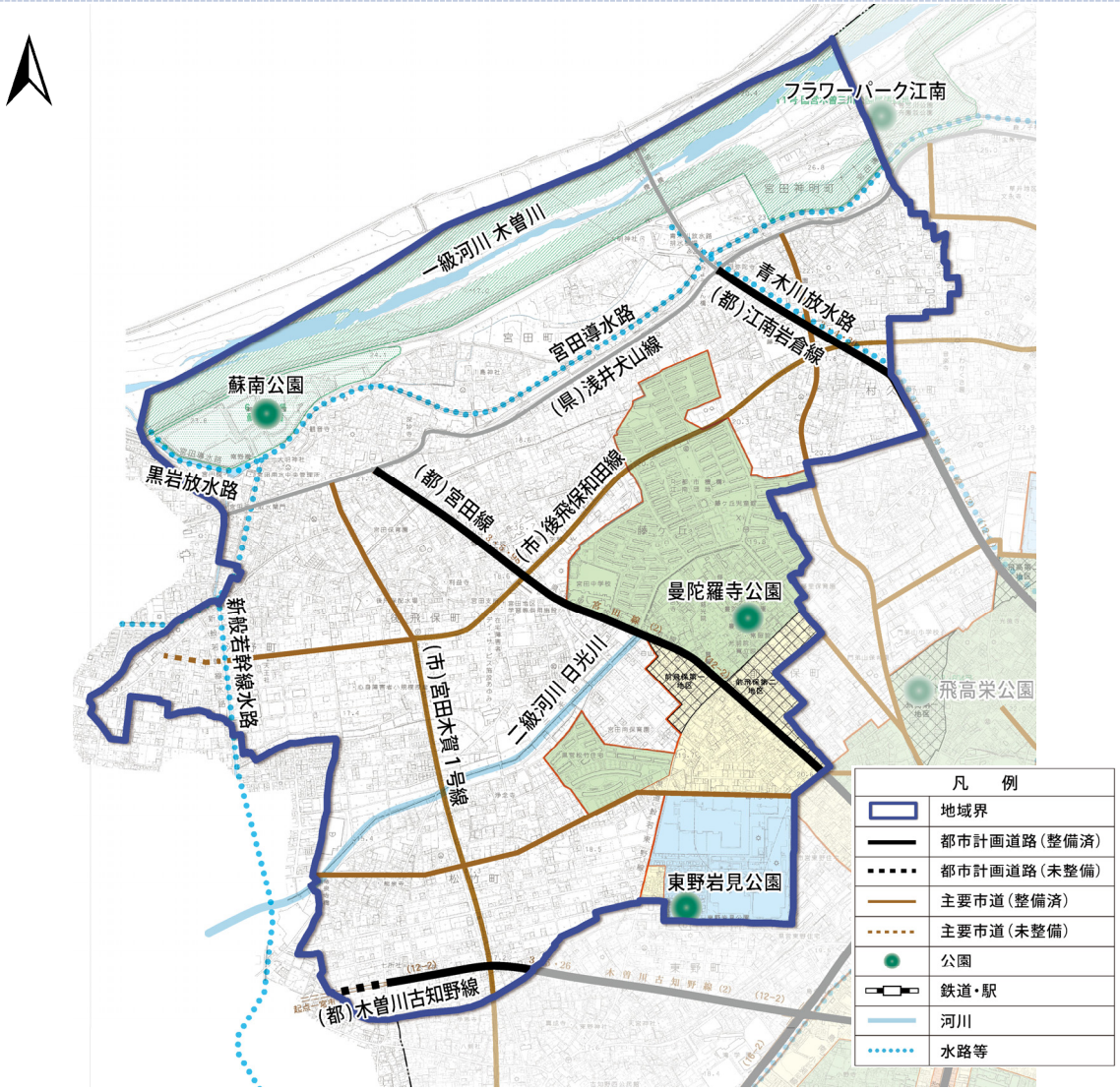


資料：全国大型小売店総覧 2019、スーパーマーケット総覧 2015、
江南市資料（H30）、江南市ホームページ［施設ガイド］、
尾北医師会ホームページ（H30）、国土数値情報（H29）、
ｉタウンページ（H30）、名鉄バス路線図（H30）

■施設分布状況

４）主な都市基盤の状況

・都市計画道路は、ほぼ整備済ですが、地域南部の(都)木曽川古知野線の一部に未整備区間が存在しており、地域内の整備率は約 94%となっています。
・公園は、多くの観光客が訪れる江南藤まつりの会場となる曼陀羅寺公園、フラワーパーク江南、蘇南公園などが整備されています。



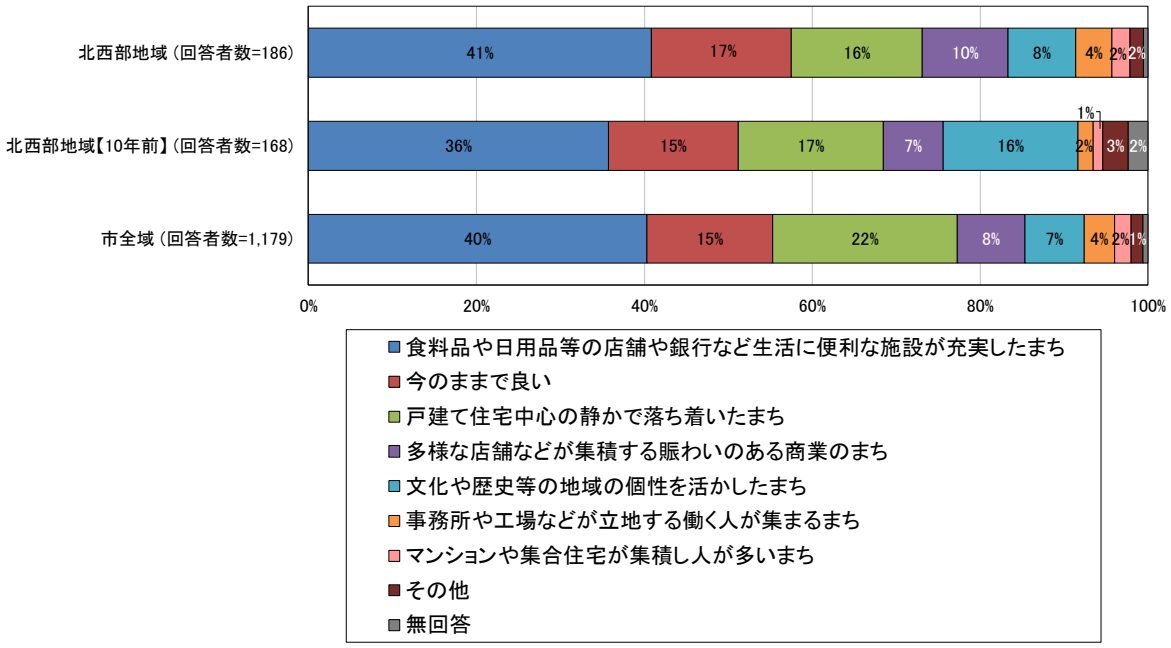
■主な都市基盤の状況

主要施設			
道　路	・(都)木曽川古知野線 ・(都)宮田線	・(都)江南岩倉線 ・(県)浅井犬山線	・(市)後飛保和田線 ・(市)宮田木賀１号線
公　園	・蘇南公園 ・東野岩見公園	・曼陀羅寺公園	・フラワーパーク江南
河川など	・一級河川木曽川 ・二級河川日光川	・宮田導水路 ・新般若幹線水路	・青木川放水路 ・黒岩放水路

（２）地域のニーズ

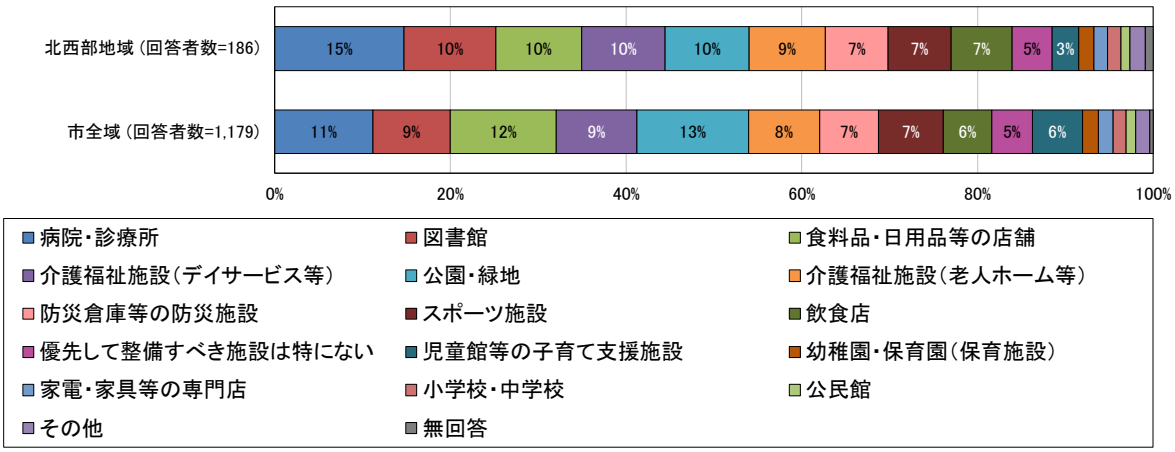
◆居住する小学校区の、今後（おおむね 10 年後）の「まち」の姿に関する意向

・「食料品や日用品等の店舗や銀行など生活に便利な施設が充実したまち」が 41%と最も高い意向を示しています。市全域の意向と比べると、「今のままで良い」との意向が 17%と高くなっています。
・10 年前と比べると、「食料品や日用品等の店舗や銀行など生活に便利な施設が充実したまち」に関する意向が増加している一方で、「文化や歴史等の地域の個性を活かしたまち」に関する意向が大幅に減少しています。



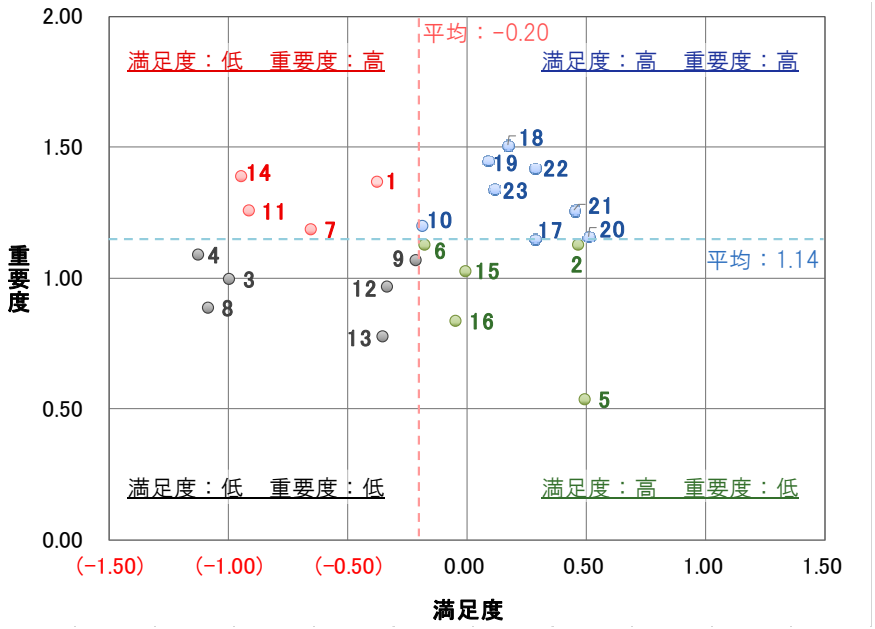
◆居住する小学校区に優先して整備すべきだと思う施設に関する意向

・「病院・診療所」、「図書館」、「食料品・日用品等の店舗」の順に整備すべき施設の意向が高く、市全域と比べて「病院・診療所」の意向が高くなっています。



◆お住まいの小学校区の生活環境に関する、現状の『満足度』と今後の『重要度』について

・満足度が低く、重要度が高い項目（優先度が高い）は「若者が江南市で生活し続けられる」「駅周辺等の鉄道やバスで行きやすい場所に商業施設が適切に配置され、買物しやすい環境となっている」「自転車のための交通基盤が整備され、安全で容易に移動できている」「バス等の公共交通網が充実し、クルマがなくてもスムーズに移動できている」などとなっています。



【低い】 現状の満足度 【高い】

【高い】 今後の重要度 【低い】

満足度：低　重要度：高 1．若者が江南市で生活し続けられる 7．駅周辺等の鉄道やバスで行きやすい場所に商業施設が適切に配置され、買物しやすい環境となっている 11．自転車のための交通基盤が整備され、安全で容易に移動できている 14．バス等の公共交通網が充実し、スムーズに移動できている	**満足度：高　重要度：高** 10．身近な生活道路の整備がされ、安全に通行できている 17．下水道や浄化槽が整備され、衛生的な生活を送っている 18．河川が整備され、安心して暮らしている 19．防災対策が進み、安心・安全に生活ができている 20．幼稚園等が充実し、子育てがしやすい環境になっている 21．学校施設や設備が整備され、教育環境が整っている 22．医療施設が整備され、安心して医療サービスを受けられる 23．介護福祉施設が整備され、介護福祉サービスを受けられる
満足度：低　重要度：低 3．工業地や工業団地が確保され、江南市の産業を牽引している 4．駅前や市街地が整備され、人々が集いにぎわっている 8．市外からの来訪者が楽しめる空間が形成されている 9．道路が整備され、都市間をスムーズに移動できている 12．市街地や主要施設周辺に駐車場が適切に配置されている 13．市街地や主要施設周辺に駐輪場が適切に配置されている	**満足度：高　重要度：低** 2．住宅環境や公営住宅が整備されている 5．適度な農地があり、うるおいのある空間を形成している 6．幹線道路沿道の商業施設が適切に配置されている 15．身近な公園や緑地が整備されている 16．住宅の庭や道路などのまちかどや公園等の緑化が進んでいる

（各項目の点数化について）
満足度は、項目ごとに「満足」を＋２点、「やや満足」を＋１点、「やや不満」を－１点、「不満」を－２点とし、重要度は、項目ごとに「重要」を＋２点、「やや重要」を＋１点、「あまり重要ではない」を－１点、「重要ではない」を－２点とし、各項目についての満足度と重要度それぞれを点数化したうえで、全項目の平均値を評価軸として、散布図を作成

（３）まちづくりの課題

北西部地域の現況調査における地域特性や市民意向調査による地域のニーズを踏まえ、まちづくりの課題を以下のとおり整理します。

≪土地利用≫

住宅団地を中心とした既存の居住環境の維持

市全体で人口減少期を迎えている中、地域別では北西部地域の人口減少が最も多くなっています。中でも、江南団地や松竹住宅における人口減少割合が高くなっています。しかし、これら住宅団地は利便性の高い安全な住宅基盤が整備されていることから、施設の利活用などにより居住地としての魅力向上を図り、今後も人口の維持を図っていくことが必要となります。

その他の田園地域に分布する住宅地についても、新たな開発を抑制し、農地と既存集落が共生した土地利用の保全に努め、既存の居住環境を維持していくことが必要です。

良好な営農環境の保全

市街化調整区域に広がる農用地区域を中心とした豊かな田園地域は、本市の農業基盤としての役割だけでなく、緑化の機能や防災機能の観点からも適切な保全が必要です。

≪施設整備≫

生活を支える交通基盤の確保

中心拠点である江南駅方面、一宮市や各務原市といった隣接市ともつながりがあることから、北西部地域と周辺地域とを結ぶ道路施設の維持・充実を図る必要があります。

また、北東部地域や中部地域を結ぶ路線バスが運行し、いこまいＣＡＲでその他の地域をカバーしている状況であることから、今後も公共交通サービスの維持確保を図る必要があります。

地域に交流をもたらすレクリエーション拠点の形成

北部の木曽川沿いに位置する蘇南公園やフラワーパーク江南は、地域住民だけでなく広域的に利用されており、多くの交流が期待できる拠点となっていることから、今後も、機能の維持及び活用を図っていく必要があります。

また、遊歩道・サイクリングロードは、隣接市町につながる広域的な健康・レクリエーションの場として、機能の維持・向上を図っていく必要があります。

«自然環境及び都市環境・都市景観»

豊かな自然が感じられる環境の保全

木曽川沿いの緑や地域に広がる農地は、木曽川の恵みを感じられる貴重な地域資源となっていることから、地域住民にとって誇れる自然環境として、それらを身近に感じられる空間の形成や、景色の保全に向けた取り組みが必要となります。

«都市防災»

安心・安全な居住環境の提供

一部の地域において豪雨時に浸水被害を受けた実績があることから、常態化しつつある局地的大雨や集中豪雨による浸水被害を軽減するためにも、河川改修などの被害軽減に向けた基盤整備を図っていくことが必要となります。

（４）まちづくりの方針

北西部地域における、まちづくりの方針を以下のとおり整理します。

１）まちづくり基本目標

❖暮らしやすい生活環境と自然が調和したまちづくり❖

北西部地域は、多くの市民が居住する江南団地をはじめとした住宅団地を含む市街地を形成していることから、今後も周辺の生活利便性を維持するとともに、持続的な人口密度の維持に向けた居住の好循環をめざします。

また、地域北部に広がる木曽川の豊かな自然や曼陀羅寺公園などの地域資源は、地域に活気と交流を生み出す資源として、活用の促進をめざします。

２）分野別の方針

①土地利用の方針

◇地域中心部の中高層住宅地は、戸建て住宅のほか、江南団地や県営松竹住宅などの中高層の住宅の立地を誘導する土地利用の形成を図ります。また、地域拠点周辺の一般住宅地については、利便性が高い居住環境の維持・形成を図ります。

◇地域北部の木曽川沿いに位置する遊歩道・サイクリングロードやフラワーパーク江南、地域中心部に位置する曼陀羅寺公園は、健康・レクリエーションの場として、機能の維持及び活用を図ります。また、木曽川沿いの緑地については、樹林地、草地、桜並木などの保全を図ります。

◇田園集落地については、既存の住宅環境を維持しつつ、周辺の緑化機能と共生する土地利用の形成を図ります。

②施設整備の方針

【道路・公共交通等の方針】

◇路線バスは、中心拠点である江南駅を結ぶ路線や地域拠点である江南厚生病院周辺を結ぶ路線を中心として、運行サービスの維持確保を図ります。また、路線バスでカバーできない地域については、いこまいＣＡＲにより市内全域を移動できる環境を維持確保します。

◇幹線道路である(都)木曽川古知野線については、隣接する一宮市と連携を図りながら整備を検討します。

【公園緑地等の方針】

◇フラワーパーク江南は、広域的なレクリエーションの場として機能する当該施設の魅力を高め、より一層の利用が図られるよう、公園整備を促進します。

◇河川沿いを利用した蘇南公園は、緑の拠点としての魅力を高めるため、機能の充実を図ります。

◇江南藤まつりが開催される曼陀羅寺公園は、本市の花と緑にふれあえる広域的なレクリエーションの場として機能していることから、緑の拠点としての魅力を高めるため、市民や来訪者のニーズを把握してさらなる利用の促進を図ります。

◇木曽川沿いの樹林地や草地の保全を図るとともに、木曽川沿いに位置する遊歩道・サイクリングロードは、木曽川の自然を楽しむことができるレクリエーションのネットワークを形成しており、適切な維持管理と利用の促進を図ります。
◇宮田導水路の遊歩道は、地域のふれあい・コミュニケーションの場として新たなネットワークが形成されるように、整備を推進します。

【河川の方針】

◇国が管理する木曽川や、県が管理している日光川の整備を促進します。

③自然環境の保全及び都市環境形成の方針

◇曼陀羅寺をはじめとする社寺林は、地域の貴重な自然資源及び景観資源であることから、社寺などと一体的な保全に努めます。
◇木曽川及び河川沿いの樹林地や草地は、優れた自然環境を有するとともに多様な生物の生息地として機能していることから、総合的な保全を図ります。
◇曼陀羅寺公園をはじめとする公園緑地等に加え、道路及び公共施設などの緑化を推進するとともに、市民や事業者が取り組む緑化活動への支援を推進し、民有地緑化の促進を図ることで、緑豊かでゆとりとうるおいのある都市環境の形成に努めます。

④都市景観形成の方針

◇木曽川は、本市を代表する自然景観であり、木曽川の水の流れと緑あふれる河川敷がつくりだす景観の保全・活用を図ります。
◇曼陀羅寺などの歴史的な資源をつなぐ「ふるさと江南歴史散策道」を中心に、文化・歴史的景観の維持に努めます。

⑤都市防災の方針

◇(都)宮田線などの優先的に通行を確保する道路に指定されている道路沿道の建築物については、災害時における避難路の確保に向けて、耐震化を促進します。
◇市街地の浸水被害の抑制に向けて、日光川などの河川改修や雨水貯留浸透施設の整備を促進するとともに、保水機能を有する田園集落地の一団の農地の保全に努めます。

3）まちづくり方針図

自然環境保全
優れた自然環境、多様な生物の生息地として、木曽川沿いの樹林地や草地の保全

公園緑地等
フラワーパーク江南の整備の促進

土地利用
木曽川沿いに位置する遊歩道・サイクリングロードの環境の保全、機能の維持及び活用

公園緑地等
宮田導水路の遊歩道の整備の推進

公園緑地等
曼陀羅寺公園の江南藤まつりなど、市民や来訪者のニーズを把握してさらなる利用の促進

都市防災
浸水被害の抑制に向けて、日光川の整備を促進

凡　例					
	地域拠点		レクリエーションエリア		国道・主要地方道 ※点線は未整備区間
	中高層住宅地		公園		一般県道・市道 ※点線は未整備区間
	一般住宅地		文教施設		鉄道・駅
	工業地		行政サービス施設		河川・水路
	田園集落地		教育施設		遊歩道・サイクリングロード
					木曽川沿いの緑地

3　中部地域

中部地域は、江南駅を中心とした市街地と、その周辺の既存集落や農地により構成されています。江南駅周辺は本市の中心拠点に位置づけられているとともに、主要な公共公益施設や人口の集積も他の地域に比べ多く、市の玄関となる地域です。

江南駅

江南厚生病院

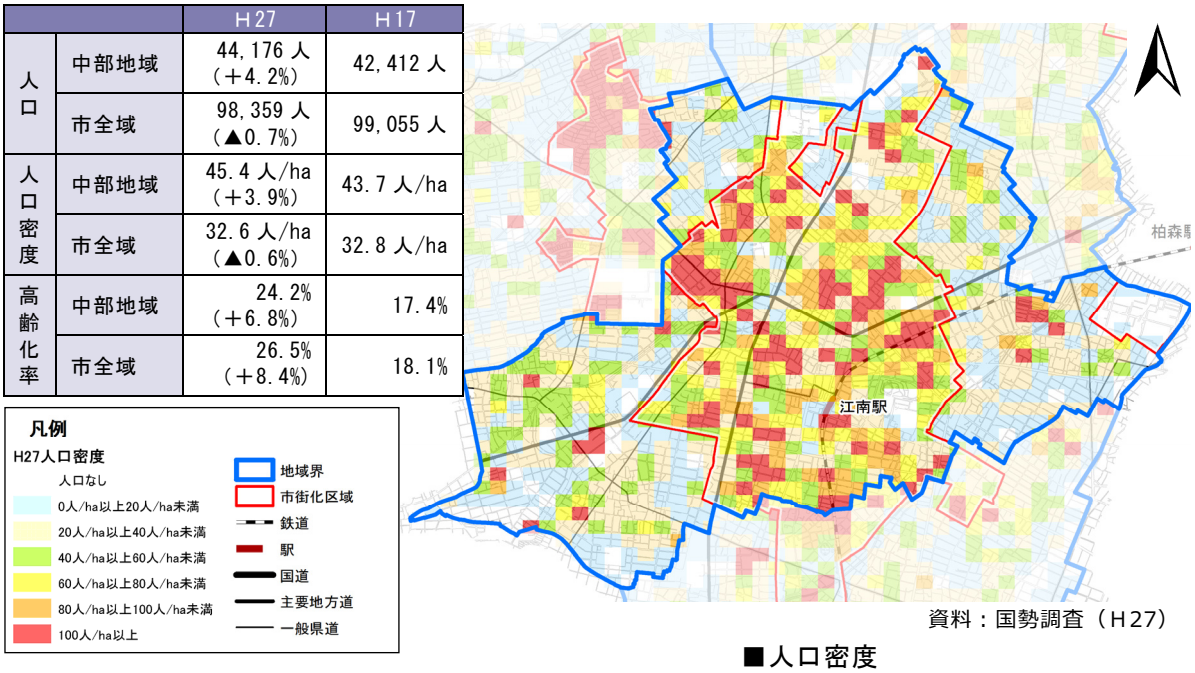
中央公園

（１）地域の現況

１）人口などの状況

・H17 からH27 までの 10 年間で市総人口は 0.7%減少している中、中部地域は 4.2%増加しています。また、高齢化率は 10 年間で 6.8%増加しています。
・人口密度は、市街化区域の密度が高くなっています。

		H27	H17
人口	中部地域	44,176 人（＋4.2%）	42,412 人
	市全域	98,359 人（▲0.7%）	99,055 人
人口密度	中部地域	45.4 人/ha（＋3.9%）	43.7 人/ha
	市全域	32.6 人/ha（▲0.6%）	32.8 人/ha
高齢化率	中部地域	24.2%（＋6.8%）	17.4%
	市全域	26.5%（＋8.4%）	18.1%

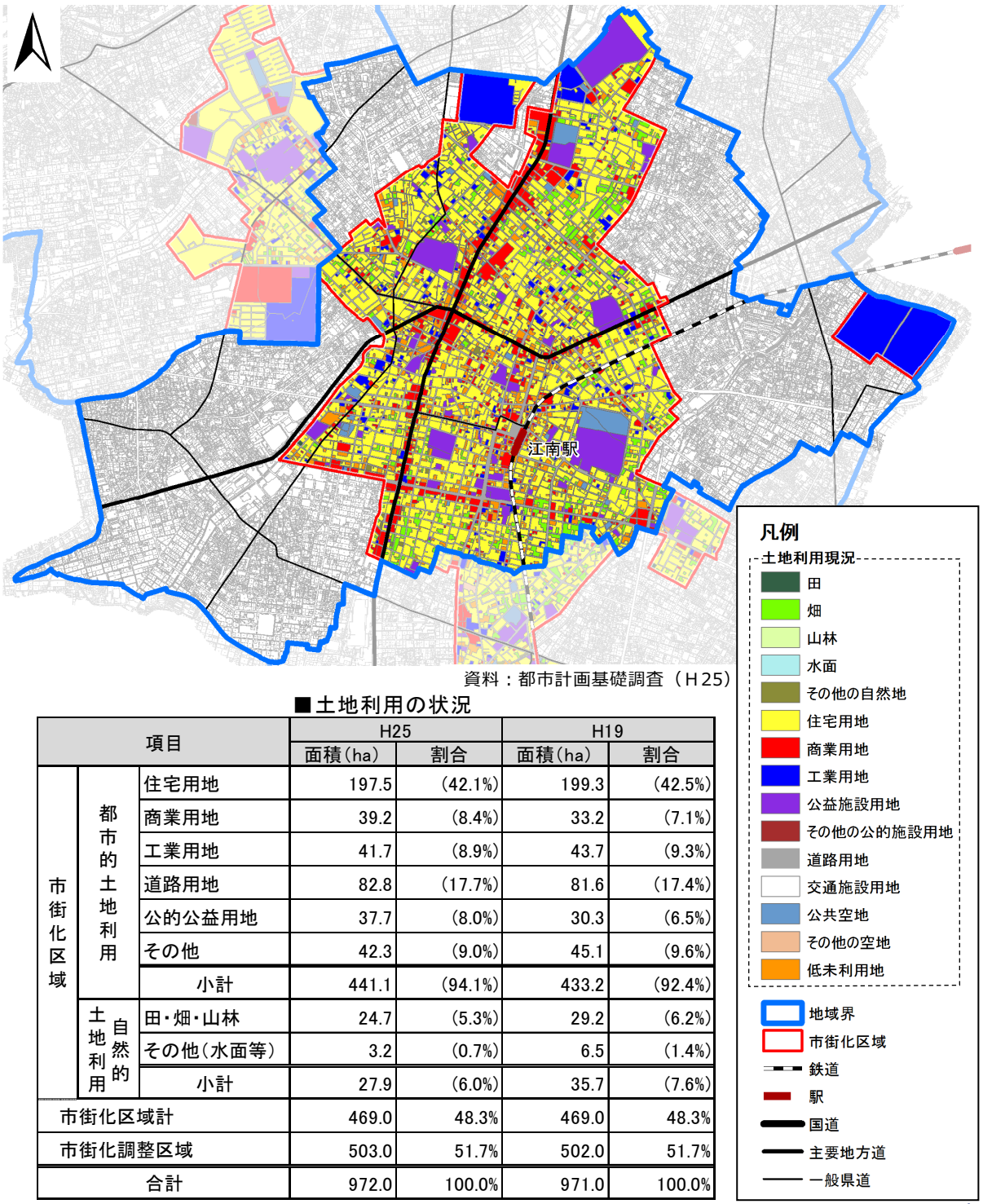


資料：国勢調査（H27）

■人口密度

2）土地利用状況

・市街化区域が約 48%、市街化調整区域が約 52%の割合となっています。
・市街化区域では、住宅用地としての利用が約 42%と最も多いですが、市の中心部ということもあり公益施設用地の利用も約８％と多くなっています。
・江南駅周辺の利便性の高い地域においても、低未利用地が多く存在しています。
・過去からの推移をみると、農地が減少し、商業用地が多くなっています。
・市街化調整区域では、田畑や住宅が全体的に広がっています。



資料：都市計画基礎調査（H25）

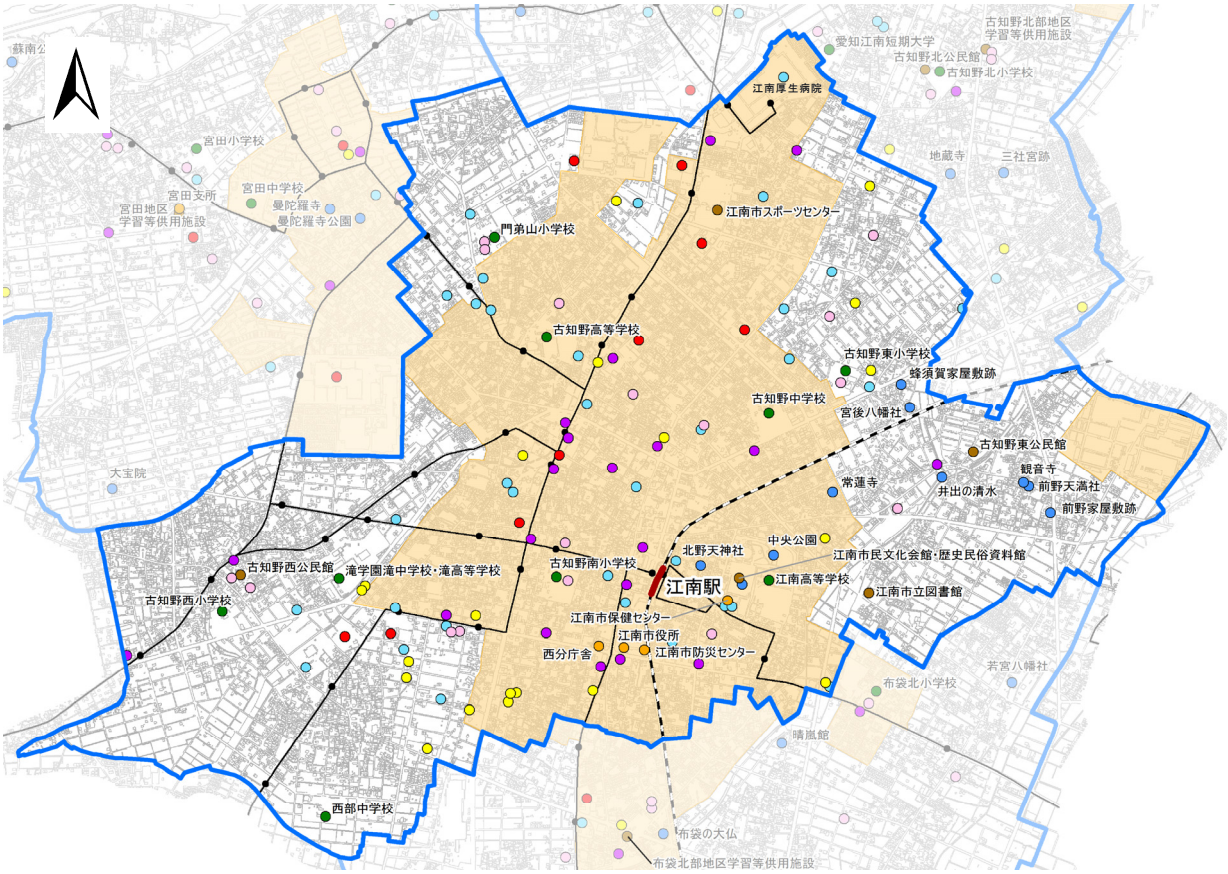
■土地利用の状況

項目			H25 面積(ha)	H25 割合	H19 面積(ha)	H19 割合
市街化区域	都市的土地利用	住宅用地	197.5	(42.1%)	199.3	(42.5%)
		商業用地	39.2	(8.4%)	33.2	(7.1%)
		工業用地	41.7	(8.9%)	43.7	(9.3%)
		道路用地	82.8	(17.7%)	81.6	(17.4%)
		公的公益用地	37.7	(8.0%)	30.3	(6.5%)
		その他	42.3	(9.0%)	45.1	(9.6%)
		小計	441.1	(94.1%)	433.2	(92.4%)
	自然的土地利用	田・畑・山林	24.7	(5.3%)	29.2	(6.2%)
		その他(水面等)	3.2	(0.7%)	6.5	(1.4%)
		小計	27.9	(6.0%)	35.7	(7.6%)
市街化区域計			469.0	48.3%	469.0	48.3%
市街化調整区域			503.0	51.7%	502.0	51.7%
合計			972.0	100.0%	971.0	100.0%

(注)「公的公益用地」…公益施設用地、その他の公的施設用地の合計　「その他」…交通施設用地、公共空地、その他の空地、低未利用地の合計　「その他（水面等）」…水面、その他の自然地の合計

3）施設分布状況

・市の中心部である中部地域は、多様な施設が集積しており、江南駅周辺には、金融施設や医療施設の集積がみられるほか、地域北部には江南厚生病院や江南市スポーツセンターが立地しています。
・地域内に、江南高等学校、古知野高等学校、滝高校の３つの高校が立地しています。
・江南駅を中心に名鉄バスと大口町コミュニティバスが網羅的に運行されています。



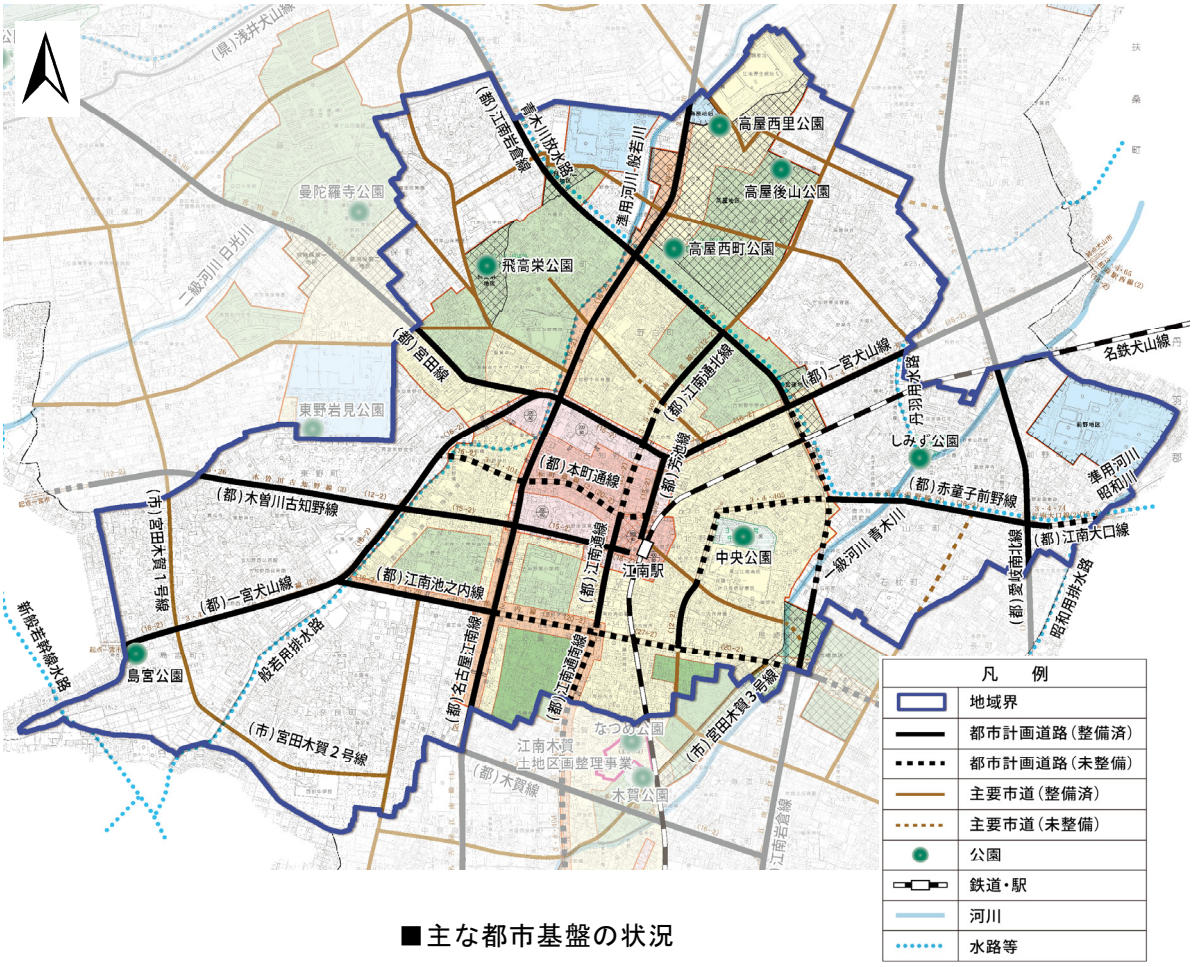
資料：全国大型小売店総覧 2019、スーパーマーケット総覧 2015、江南市資料（H30）、江南市ホームページ［施設ガイド］、尾北医師会ホームページ（H30）、国土数値情報（H29）、ｉタウンページ（H30）、名鉄バス路線図（H30）、大口町ホームページ［コミュニティバス］（H30）

凡例
- 商業施設
- 行政サービス施設
- 教育施設
- 保育・子育て支援施設
- 文教施設
- 福祉施設
- 医療施設
- 金融施設
- 主要地域資源
- 地域界
- 市街化区域
- 鉄道
- 駅
- バス停
- バス路線

■施設分布状況

4）主な都市基盤の状況

・都市計画道路は、江南駅周辺の(都)江南通線や(都)本町通線などに未整備区間が存在しており、地域内の整備率は約 75%となっています。
・公園は、中央公園やしみず公園などの比較的規模が大きい公園が整備されているほか、地域北部に街区公園として高屋西町公園などが整備されています。



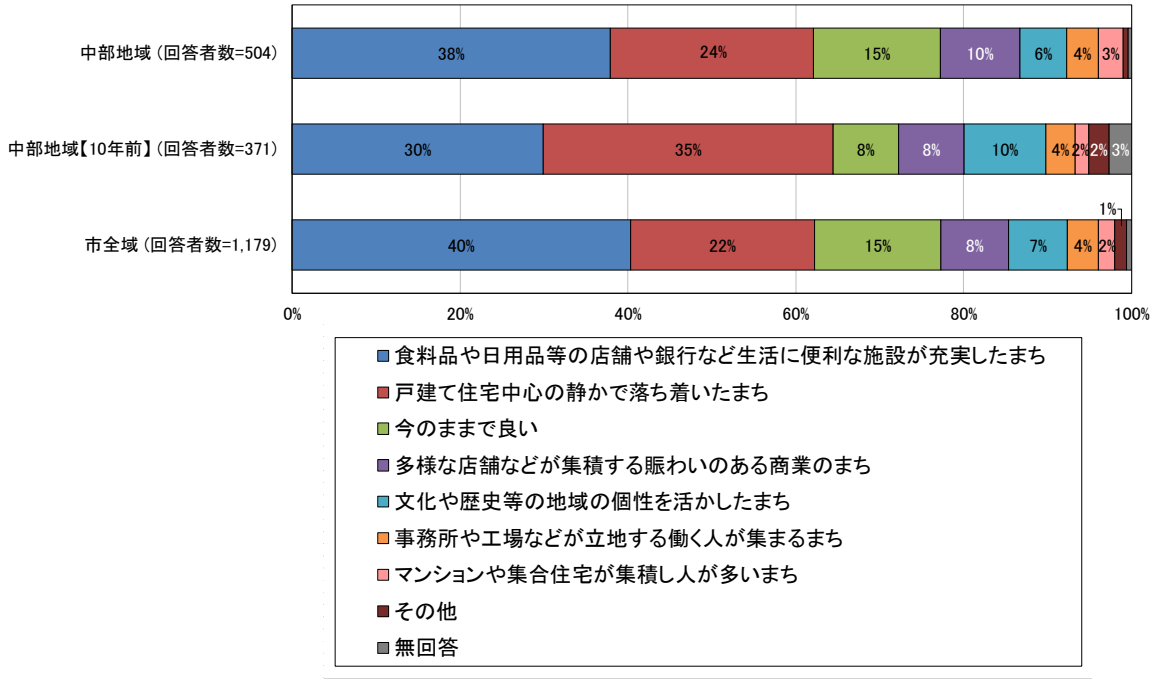
■主な都市基盤の状況

主要施設			
道　路	・(都)木曽川古知野線 ・(都)宮田線 ・(都)一宮犬山線 ・(都)江南池之内線 ・(都)名古屋江南線 ・(都)江南通北線	・(都)江南通線 ・(都)江南通南線 ・(都)赤童子前野線 ・(都)江南大口線 ・(都)愛岐南北線 ・(都)江南岩倉線	・(都)本町通線 ・(都)芳池線 ・(市)宮田木賀１号線 ・(市)宮田木賀２号線 ・(市)宮田木賀３号線
公　園	・中央公園 ・高屋西町公園 ・しみず公園	・島宮公園 ・高屋後山公園	・高屋西里公園 ・飛高栄公園
河川など	・一級河川青木川 ・準用河川般若川 ・準用河川昭和川	・般若用排水路 ・新般若幹線水路	・丹羽用水路 ・青木川放水路

（２）地域のニーズ

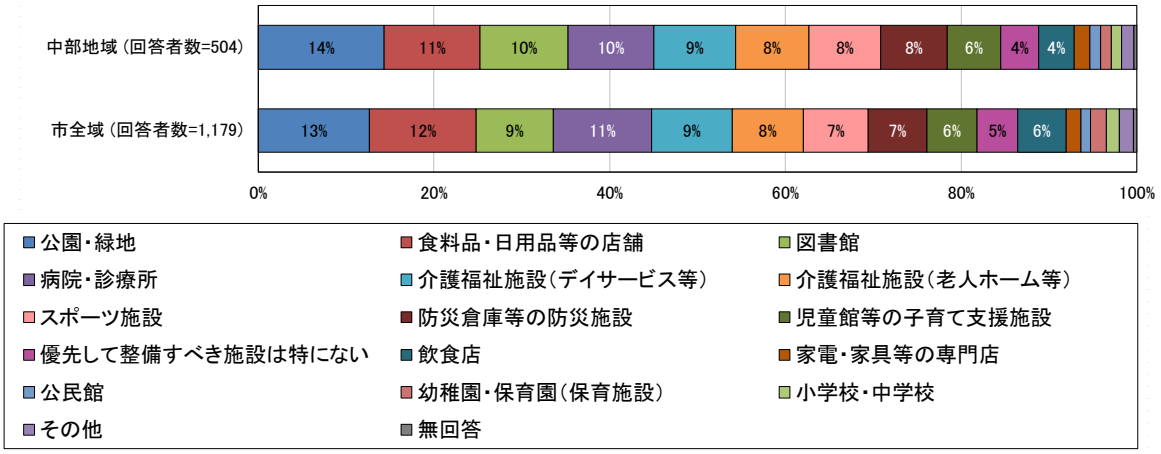
◆居住する小学校区の、今後（おおむね 10 年後）の「まち」の姿に関する意向

・「食料品や日用品等の店舗や銀行など生活に便利な施設が充実したまち」が 38%と最も高い意向を示していますが、市全域の意向より「戸建て住宅中心の静かで落ち着いたまち」を望む意向が 24%と高くなっています。
・10 年前と比べると、「食料品や日用品等の店舗や銀行など生活に便利な施設が充実したまち」に関する意向が高くなっているほか、「今のままで良い」との意向も高くなっています。



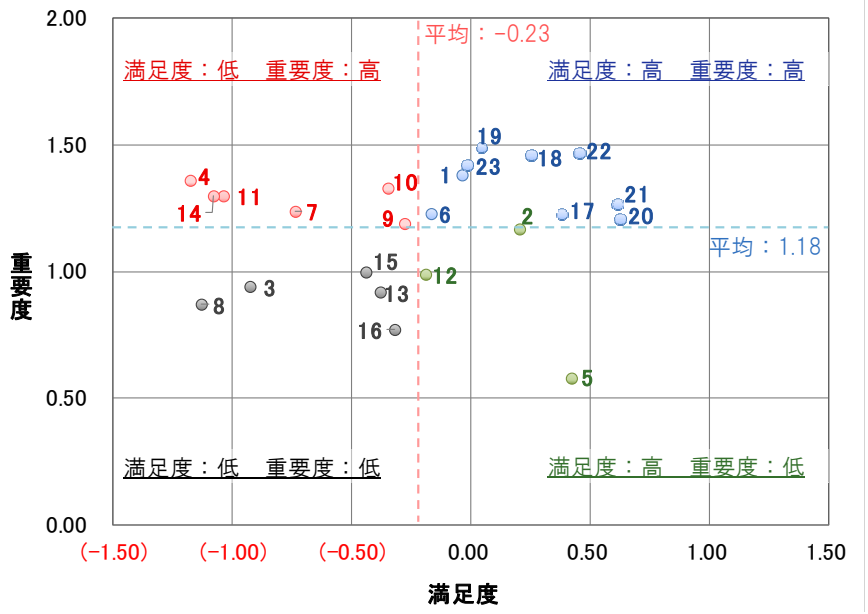
◆居住する小学校区に優先して整備すべきだと思う施設に関する意向

・「公園・緑地」、「食料品・日用品等の店舗」、「病院・診療所」の順に整備すべき施設の意向が高くなっており、その傾向は、市全域と同様の傾向となっています。



◆お住まいの小学校区の生活環境に関する、現状の『満足度』と今後の『重要度』について

・満足度が低く、重要度が高い項目（優先度が高い）は「駅前や市街地が整備され、人々が集いにぎわっている」「バス等の公共交通網が充実し、クルマがなくてもスムーズに移動できている」「自転車のための交通基盤が整備され、安全で容易に移動できている」「駅周辺等の鉄道やバスで行きやすい場所に商業施設が適切に配置され、買物しやすい環境となっている」などとなっています。



【低い】 現状の満足度 【高い】

【高い】 今後の重要度 【低い】

満足度：低　重要度：高 4．駅前や市街地が整備され、人々が集いにぎわっている 7．駅周辺等の鉄道やバスで行きやすい場所に商業施設が適切に配置され、買物しやすい環境となっている 9．道路が整備され、都市間をスムーズに移動できている 10．身近な生活道路の整備がされ、安全に通行できている 11．自転車のための交通基盤が整備され、安全で容易に移動できている 14．バス等の公共交通網が充実し、スムーズに移動できている	**満足度：高　重要度：高** 1．若者が江南市で生活し続けられる 6．幹線道路沿道の商業施設が適切に配置されている 17．下水道や浄化槽が整備され、衛生的な生活を送っている 18．河川が整備され、安心して暮らしている 19．防災対策が進み、安心・安全に生活ができている 20．幼稚園等が充実し、子育てがしやすい環境になっている 21．学校施設や設備が整備され、教育環境が整っている 22．医療施設が整備され、安心して医療サービスを受けられる 23．介護福祉施設が整備され、介護福祉サービスを受けられる
満足度：低　重要度：低 3．工業地や工業団地が確保され、江南市の産業を牽引している 8．市外からの来訪者が楽しめる空間が形成されている 13．市街地や主要施設周辺に駐輪場が適切に配置されている 15．身近な公園や緑地が整備されている 16．住宅の庭や道路などのまちかどや公園等の緑化が進んでいる	**満足度：高　重要度：低** 2．住宅環境や公営住宅が整備されている 5．適度な農地があり、うるおいのある空間を形成している 12．市街地や主要施設周辺に駐車場が適切に配置されている

（各項目の点数化について）
満足度は、項目ごとに「満足」を＋２点、「やや満足」を＋１点、「やや不満」を－１点、「不満」を－２点とし、重要度は、項目ごとに「重要」を＋２点、「やや重要」を＋１点、「あまり重要ではない」を－１点、「重要ではない」を－２点とし、各項目についての満足度と重要度それぞれを点数化したうえで、全項目の平均値を評価軸として、散布図を作成

（３）まちづくりの課題

中部地域の現況調査における地域特性や市民意向調査による地域のニーズなどを踏まえ、まちづくりの課題を以下のとおり整理します。

≪土地利用≫

江南駅周辺などの利便性の高い地域への居住の誘導

市全体で人口減少期を迎えている中、中部地域では増加傾向を保っています。中でも、江南駅周辺については、高い移動利便性や生活利便性を有しているため、今後も居住の誘導を図る必要があります。

既存ストックを活用した居住の誘導

中部地域は、生活サービス施設が集積し、良好な居住環境を形成していますが、市街化区域内の一部の地域では農地などが残存しています。これら利便性の高い地域における農地などについては、宅地等の都市的な土地利用への転換が必要となっています。

≪施設整備≫

交流が生まれる魅力的な拠点の形成

市民や来訪者が日常的に利用する江南駅周辺は、多くの人々が行き交う空間であることから、新たな活気を生み出すために、集いたくなる魅力的な交流空間の創出を図る必要があります。

生活・産業を支える交通基盤の整備

通勤・通学の流動が多い地域特性を有することから、多くの人が行き交う江南駅周辺については、駅周辺の道路基盤や利便性の高い乗換え環境などの確保に向けた交通基盤の充実を図る必要があります。

また、江南駅を中心に路線バスが運行し、いこまいＣＡＲでその他の地域をカバーしている状況であることから、今後も公共交通サービスの維持確保を図る必要があります。

身近にうるおいと憩いを提供できる交流空間の形成

子育て世代に対する遊び場の提供や健康志向の高まりによる公園に対するニーズの多様化への対応に向け、既存公園の利用促進や身近な公園緑地等の整備を検討することなどが必要となります。

安心して学べる環境づくり

住みたくなる環境の提供のためには、安心して子育てができ、子どもたちが安心して学べる環境の提供が重要となります。そのため、子育て支援施設や教育施設の充実及び通学環境の安全性を確保するほか、子どもだけでなく多様な世代が学習できる環境の創出が必要となります。

«自然環境及び都市環境・都市景観»

風土と趣きが感じられる空間の形成

社寺や史跡などの歴史資源、農地、公園緑地等の地域資源は、地域の歴史と文化を映し出す貴重な地域資源となっているため、今後も地域ニーズを踏まえたうえで、それらを身近に感じられる空間の形成や、過去から受け継がれる景色の保全に向けた取り組みが必要となります。

«都市防災»

安心・安全な居住環境の提供

一部の地域において豪雨時に浸水被害を受けた実績があることから、常態化しつつある局地的大雨や集中豪雨による浸水被害を軽減するためにも、河川改修などの被害軽減に向けた基盤整備を図っていくことが必要となります。

（４）まちづくりの方針

中部地域における、まちづくりの方針を以下のとおり整理します。

１）まちづくり基本目標

❖魅力のある駅周辺の形成と安心して住み続けられるまちづくり❖

多くの市民や来訪者が行き交う江南駅周辺は、本市の玄関として、安心して快適に過ごせる地域としての印象を与えられる空間の形成をめざします。また、江南駅周辺では、移動利便性と生活利便性を兼ね備えた都市基盤を有している強みを活かし、本市の中心にふさわしい土地利用の転換を図り、魅力的な居住地を創出し、本市に活気をもたらす新たな居住の誘導をめざします。

２）分野別の方針

①土地利用の方針

◇地域南部の低層住宅地は、低層の戸建て住宅を中心とした緑豊かで落ち着きのある良好な居住環境を有した住宅地の形成を図ります。

◇中心拠点と地域拠点を結ぶ(都)名古屋江南線の沿道などの沿道複合地は、商業施設や生活サービス施設と住宅地が調和した土地利用の形成を図ります。

◇江南駅周辺の商業地は、市内各地からのアクセスの良さを活かした魅力ある拠点形成のため、ニーズに応じた多様な都市機能の維持や集積を図ります。また、江南駅西側の地域については、幹線道路の沿道に位置する特性とあわせ、周辺住民の生活利便性の向上に資する商業施設の維持・充実を図ります。

◇江南市スポーツプラザについては、広域的なスポーツ・レクリエーション施設の拠点として整備を図るよう土地利用を形成します。

②施設整備の方針

【道路・公共交通等の方針】

◇幹線道路である(都)江南通線の整備を推進し、(都)江南大口線の整備を促進します。また、(都)江南岩倉線については、整備を図るよう検討します。

◇補助幹線道路である(都)本町通線は、地域の円滑な交通処理や良好な環境を形成するため、整備を図るよう検討します。

◇江南駅周辺については、駅利用者の円滑かつ安全な移動利便性の確保に向け、駅へのアクセス道路の交通環境改善など都市基盤の整備・検討を進めます。

◇路線バスは、鉄道と連携し、中心拠点である布袋駅を結ぶ路線と地域拠点を結ぶ路線を中心として、運行サービスの維持確保を図ります。また、路線バスでカバーできない地域については、いこまいＣＡＲにより市内全域を移動できる環境を維持確保します。

【公園緑地等の方針】

◇市街地にある中央公園は、緑の拠点としての魅力を高めるため、機能の充実を図ります。

◇生産緑地地区※やまちなかの低未利用地の活用などにより、一定以上の面積が確保できる場合には、人口密度が高いにもかかわらず身近に公園緑地等が少ない地域を中心に地域バランスのとれた適切な配置・整備を検討します。

【市街地整備の方針】

◇江南駅周辺は、市内各地からのアクセスの良さを活かすとともに、地域の意向を踏まえた魅力ある中心市街地の形成を図るため、駅までの交通手段の維持・確保、都市計画道路の整備の推進、江南駅前の市街地開発の検討を進めます。

【河川の方針】

◇県が管理している青木川の整備を促進します。

③自然環境の保全及び都市環境形成の方針

◇宮後八幡社をはじめとする社寺林は、地域の貴重な自然資源及び景観資源であることから、社寺などと一体的な保全に努めます。

◇緑豊かで心が安らぐ水辺を創出する青木川の河川沿いの緑は、水と緑のネットワークとして適切な維持管理を行うとともに、しみず公園内の親水施設とあわせ、機能の維持を図ります。

◇中央公園をはじめとする公園緑地等に加え、道路及び公共施設などの緑化を推進するとともに、市民や事業者が取り組む緑化活動への支援を推進し、民有地緑化の促進を図ることで、緑豊かでゆとりとうるおいのある都市環境の形成に努めます。

④都市景観形成の方針

◇地域内に点在する史跡などの歴史的な資源をつなぐ「ふるさと江南歴史散策道」を中心に、文化・歴史的景観の維持に努めます。

◇江南駅周辺では、街路樹などによる道路景観の形成や、駅前で実施する花いっぱい運動等により景観の向上に努め、本市の中心拠点にふさわしい都市的な景観形成を推進します。

⑤都市防災の方針

◇(都)名古屋江南線などの緊急輸送道路及び優先的に通行を確保する道路に指定されている道路沿道の建築物については、災害時における避難路の確保に向けて、耐震化を促進します。

◇地域中心部や東部に多く発生している市街地の浸水被害の抑制に向けて、河川改修や雨水貯留浸透施設の整備を促進するとともに、保水機能を有する田園集落地の一団の農地の保全に努めます。

3）まちづくり方針図

土地利用

(都)名古屋江南線沿道などについて、商業施設や生活サービス施設と住宅地が調和した土地利用の形成

土地利用

江南市スポーツプラザについて、広域的なスポーツ・レクリエーション施設の拠点として整備を図るよう土地利用を形成

土地利用

幹線道路の沿道に位置する特性を活かし、周辺住民の生活利便性の向上に資する施設の維持・充実

自然環境保全

しみず公園内の親水施設とあわせた、青木川の河川沿いの緑の機能の維持

道路・公共交通等

(都)江南通線の整備の推進

公園緑地等

中央公園の機能の充実

道路・公共交通等

駅利用者の円滑かつ安全な移動利便性の確保に向け、駅へのアクセス道路の交通環境改善などの都市基盤整備の整備・検討

市街地整備

日常生活の向上や駅までの交通手段の維持・確保など、魅力ある中心市街地の形成

凡　例					
	中心拠点		工業地	小 中 高	教育施設
	地域拠点		沿道複合地		歴史資源等
	低層住宅地		田園集落地		国道・主要地方道 ※点線は未整備区間
	中高層住宅地		レクリエーションエリア		一般県道・市道 ※点線は未整備区間
	一般住宅地		公園		鉄道・駅
	商業地		文教施設		河川・水路
	近隣商業地		行政サービス施設		

4 南部地域

南部地域は、地域の中心部に布袋駅が位置し、本市の南玄関となっている地域です。また、現在、鉄道高架化事業や布袋駅西側において土地区画整理事業が進められているなど、布袋駅を中心とした発展が望まれる地域です。

また、布袋駅周辺の旧市街地には、蔵や造り酒屋などの趣きのある建築物が残っており、地域の周縁部では、農地が広がっています。

布袋駅

久昌寺公園

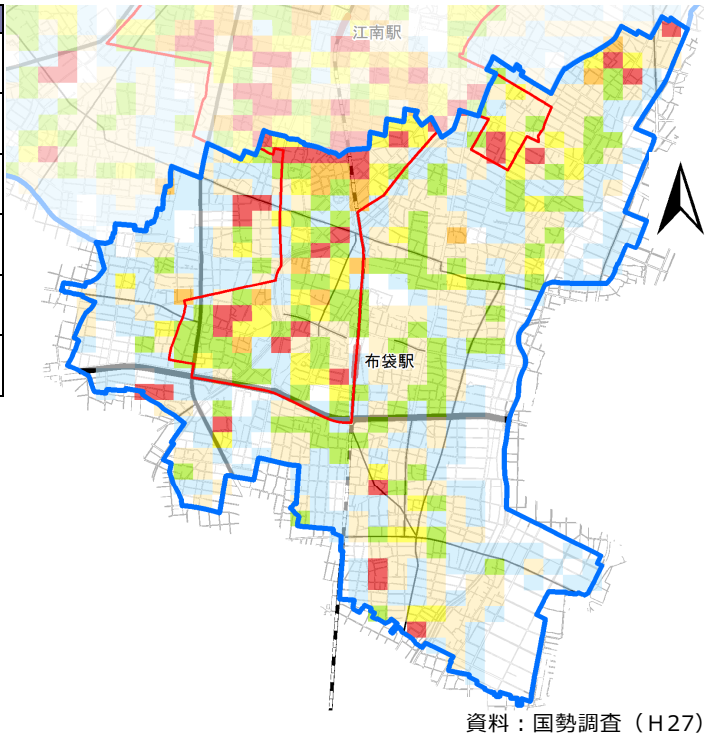
五条川（尾北自然歩道）

（1）地域の現況

1）人口などの状況

・H17 からH27 までの 10 年間で市総人口は 0.7%減少している中､南部地域では 1.1%減少しています。また、高齢化率は 10 年間で 7 %増加しています。
・人口密度は、市街化区域の密度が高くなっていますが、市街化調整区域についても、一部高い地域が点在しています。

		H27	H17
人口	南部地域	20, 584 人（▲1. 1%）	20, 821 人
	市全域	98, 359 人（▲0. 7%）	99, 055 人
人口密度	南部地域	29. 6 人/ha（▲1. 3%）	30. 0 人/ha
	市全域	32. 6 人/ha（▲0. 6%）	32. 8 人/ha
高齢化率	南部地域	26. 3%（＋7. 0%）	19. 3%
	市全域	26. 5%（＋8. 4%）	18. 1%

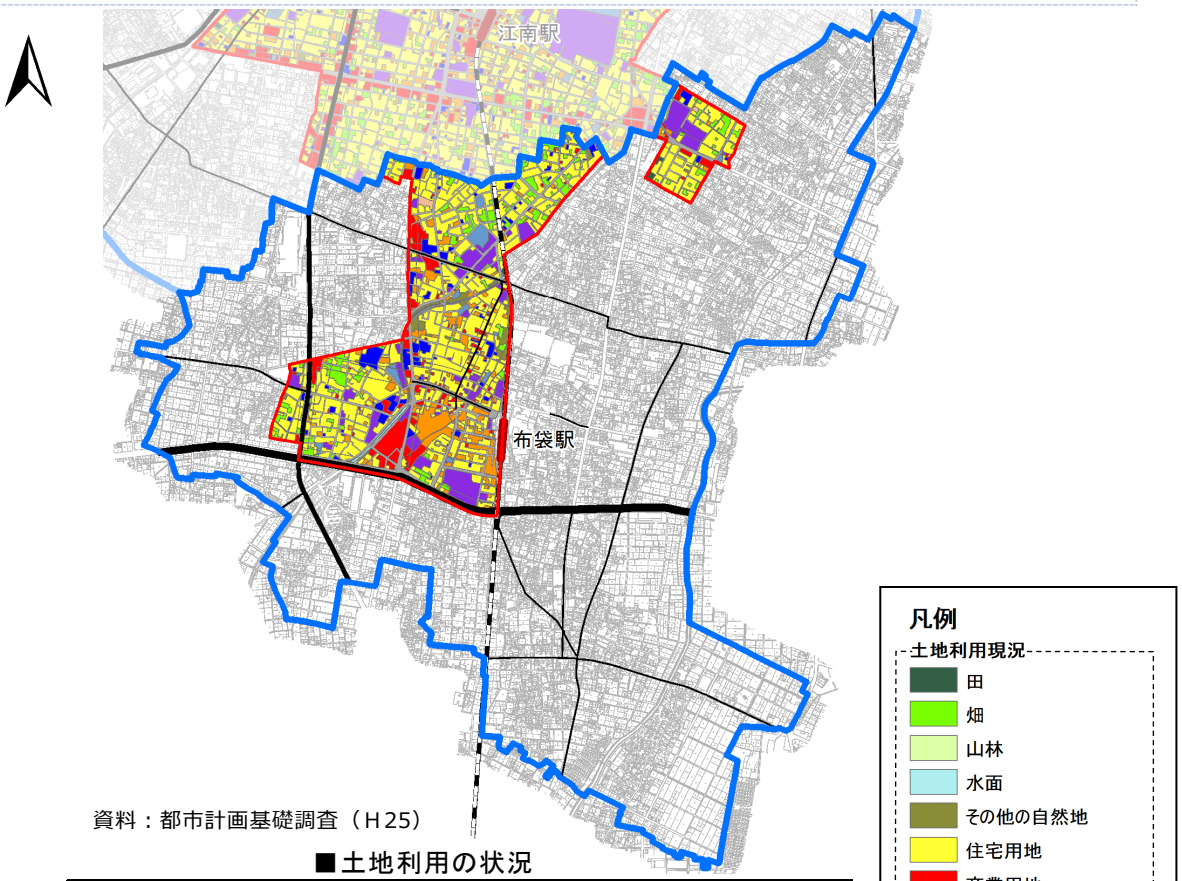


資料：国勢調査（H27）

■人口密度

2）土地利用状況

・市街化区域が約 19%、市街化調整区域が約 81%の割合となっています。
・市街化区域では、住宅用地としての利用が約 43%と最も多くなっていますが、布袋駅周辺には教育施設をはじめとした公共公益施設用地の利用も約８%と多くなっています。
・布袋駅周辺の利便性の高い地域においても、低未利用地が多く存在しています。
・過去からの推移をみると、工業用地、公的・公益施設用地、自然的土地利用が減少し、商業用地や道路用地が微増しています。
・市街化調整区域では、工場が点在しているほか、田畑や住宅が全体的に広がっています。



資料：都市計画基礎調査（H25）

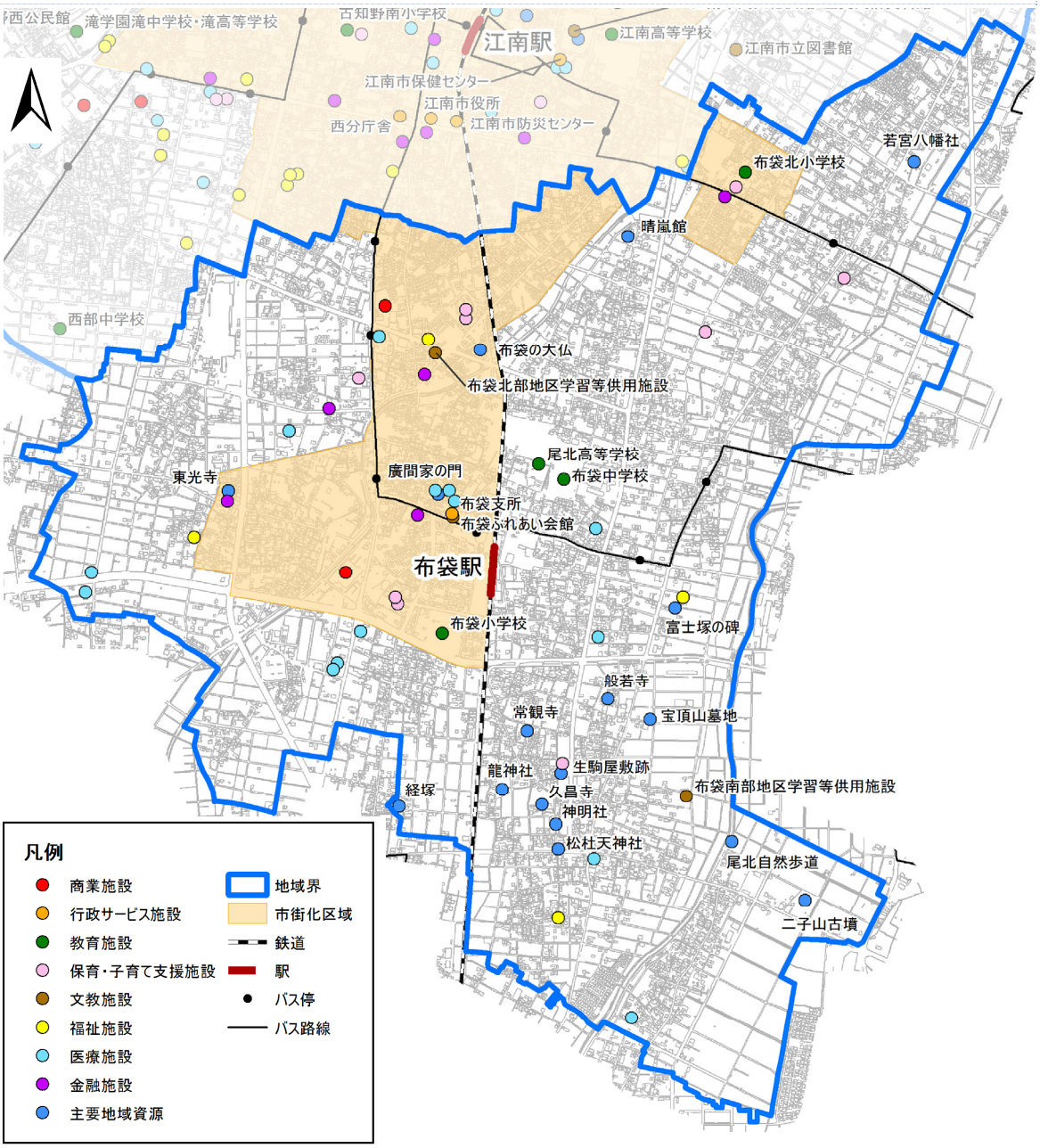
■土地利用の状況

項目			H25 面積(ha)	H25 割合	H19 面積(ha)	H19 割合
市街化区域	都市的土地利用	住宅用地	57.4	(42.7%)	60.4	(45.0%)
		商業用地	8.1	(6.0%)	7.5	(5.6%)
		工業用地	5.7	(4.3%)	6.4	(4.8%)
		道路用地	25.8	(19.2%)	24.8	(18.5%)
		公的公益用地	10.9	(8.1%)	12.0	(8.9%)
		その他	15.0	(11.1%)	9.2	(6.8%)
		小計	122.8	(91.4%)	120.3	(89.6%)
	自然的土地利用	田・畑・山林	8.2	(6.1%)	9.3	(6.9%)
		その他（水面等）	3.4	(2.5%)	4.7	(3.5%)
		小計	11.6	(8.6%)	14.0	(10.4%)
市街化区域計			134.4	19.3%	134.3	19.3%
市街化調整区域			560.6	80.7%	559.6	80.6%
合計			695.0	100.0%	693.9	100.0%

（注）「公的公益用地」…公益施設用地、その他の公的施設用地の合計　「その他」…交通施設用地、公共空地、その他の空地、低未利用地の合計
「その他（水面等）」…水面、その他の自然地の合計

3）施設分布状況

・布袋駅周辺には、医療施設や教育施設、保育・子育て支援施設などの施設の集積がみられます。また、布袋支所や布袋ふれあい会館のほか、小学校、中学校、高等学校が１校ずつ立地しています。
・南部には織田信長の室であった「生駒の方」のゆかりの生駒屋敷跡などの史跡があり、また布袋駅周辺には、蔵や町屋などの歴史ある建物が残っています。
・布袋駅を起点として名鉄バスや大口町コミュニティバスが運行されています。

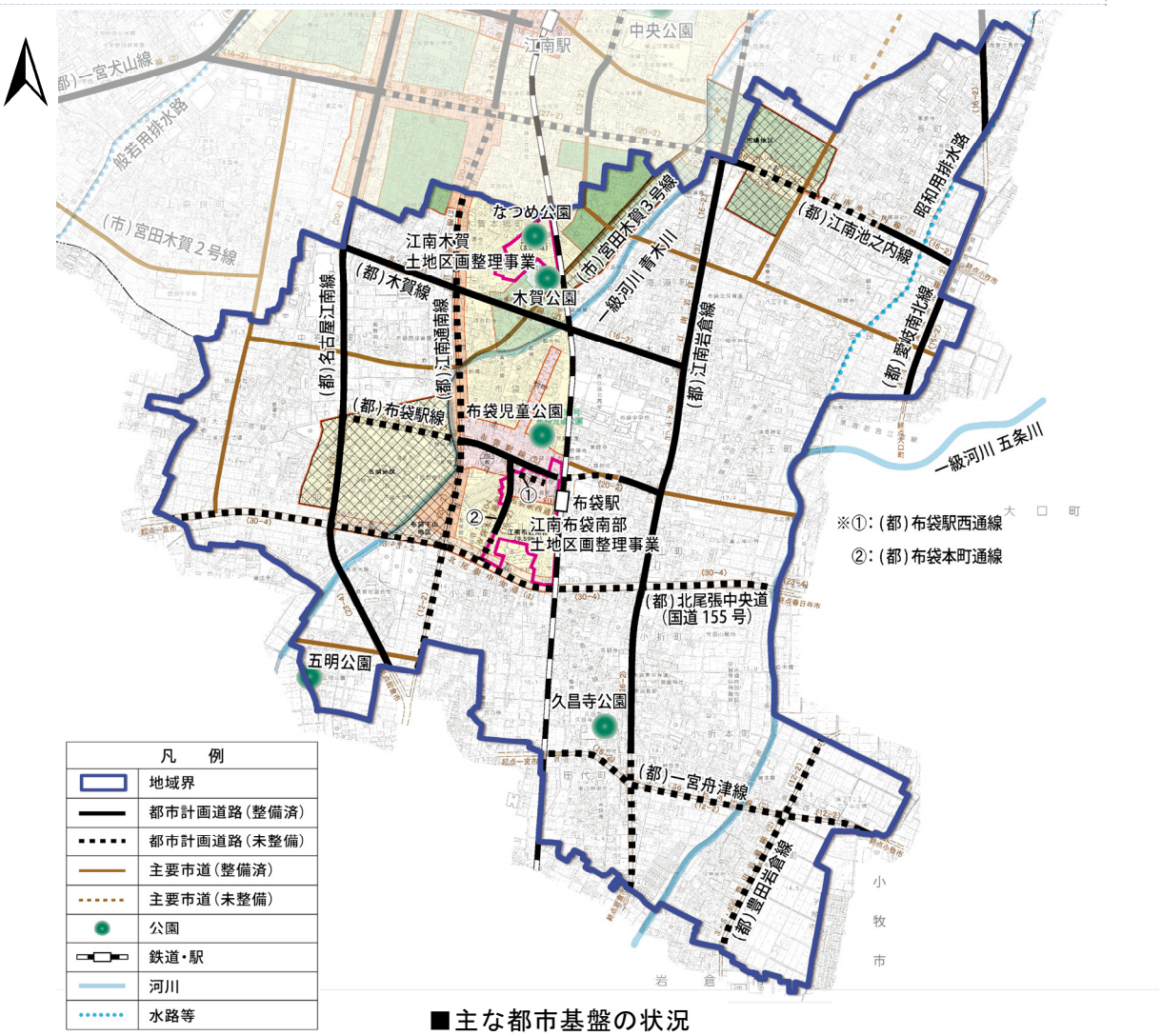


資料：全国大型小売店総覧 2019、スーパーマーケット総覧 2015、江南市資料（H30）、江南市ホームページ［施設ガイド］、尾北医師会ホームページ（H30）、国土数値情報（H29）、ｉタウンページ（H30）、名鉄バス路線図（H30）、大口町ホームページ［コミュニティバス］（H30）

■施設分布状況

４）主な都市基盤の状況

・都市計画道路は、布袋駅周辺の(都)布袋駅線や地域南部の(都)豊田岩倉線などに未整備区間が存在しており、地域内の整備率は約 54%となっています。
・公園は、久昌寺公園、木賀公園、なつめ公園などが整備されています。
・布袋駅西側の地区で、江南布袋南部土地区画整理事業を施行しています。



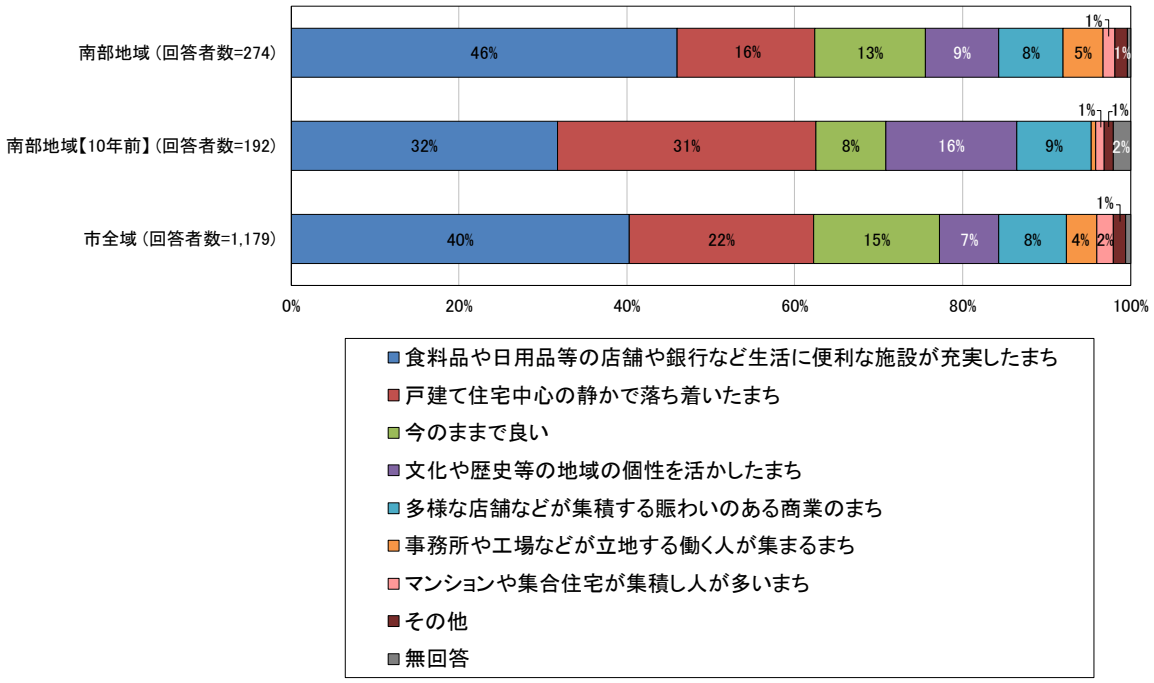
■主な都市基盤の状況

主要施設			
道　路	・(都)江南池之内線 ・(都)北尾張中央道 ・(都)名古屋江南線 ・(都)布袋駅線 ・(都)木賀線	・(都)江南通南線 ・(都)布袋本町通線 ・(都)江南岩倉線 ・(都)一宮舟津線	・(都)愛岐南北線 ・(都)豊田岩倉線 ・(都)布袋駅西通線 ・(市)宮田木賀３号線
公　園	・木賀公園 ・布袋児童公園	・なつめ公園 ・五明公園	・久昌寺公園
河川など	・一級河川五条川	・一級河川青木川	・昭和用排水路
開発事業			
・江南木賀土地区画整理事業		・江南布袋南部土地区画整理事業（施行中）	

（２）地域のニーズ

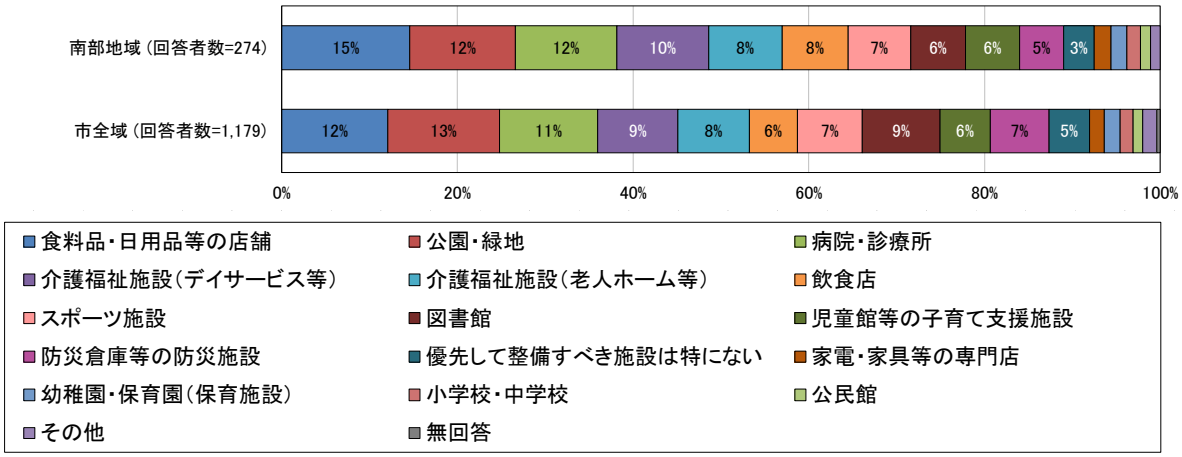
◆居住する小学校区の、今後（おおむね 10 年後）の「まち」の姿に関する意向

・「食料品や日用品等の店舗や銀行など生活に便利な施設が充実したまち」が 46%と最も高く、市全域の意向 40%に比べて高い割合を示しています。
・10 年前と比べると、「戸建て住宅中心の静かで落ち着いたまち」が減少し、「食料品や日用品等の店舗や銀行など生活に便利な施設が充実したまち」に関する意向が大きく増加しています。



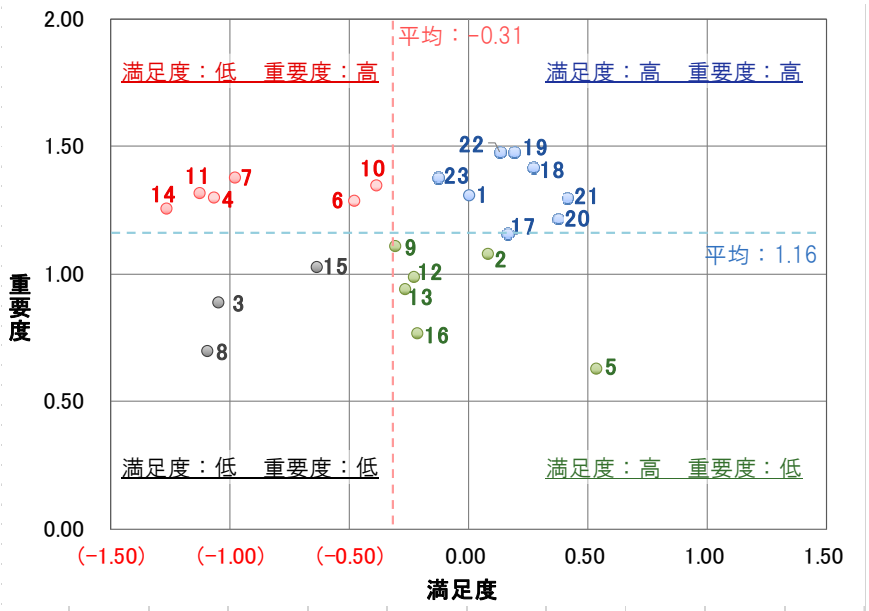
◆居住する小学校区に優先して整備すべきだと思う施設に関する意向

・「食料品・日用品等の店舗」、「公園・緑地」、「病院・診療所」の順に整備すべき施設の意向が高く、その傾向は市全域と同様の傾向となっています。



◆お住まいの小学校区の生活環境に関する、現状の『満足度』と今後の『重要度』について

・満足度が低く、重要度が高い項目（優先度が高い）は「駅前や市街地が整備され、人々が集いにぎわっている」「駅周辺等の鉄道やバスで行きやすい場所に商業施設が適切に配置され、買物しやすい環境となっている」「自転車のための交通基盤が整備され、安全で容易に移動できている」「バス等の公共交通網が充実し、クルマがなくてもスムーズに移動できている」などとなっています。



【低い】 現状の満足度 【高い】

【高い】 今後の重要度 【低い】

満足度：低　重要度：高 4．駅前や市街地が整備され、人々が集いにぎわっている 6．幹線道路沿道の商業施設が適切に配置されている 7．駅周辺等の鉄道やバスで行きやすい場所に商業施設が適切に配置され、買物しやすい環境となっている 10．身近な生活道路の整備がされ、安全に通行できている 11．自転車のための交通基盤が整備され、安全で容易に移動できている 14．バス等の公共交通網が充実し、スムーズに移動できている	**満足度：高　重要度：高** 1．若者が江南市で生活し続けられる 17．下水道や浄化槽が整備され、衛生的な生活を送っている 18．河川が整備され、安心して暮らしている 19．防災対策が進み、安心・安全に生活ができている 20．幼稚園等が充実し、子育てがしやすい環境になっている 21．学校施設や設備が整備され、教育環境が整っている 22．医療施設が整備され、安心して医療サービスを受けられる 23．介護福祉施設が整備され、介護福祉サービスを受けられる
満足度：低　重要度：低 3．工業地や工業団地が確保され、江南市の産業を牽引している 8．市外からの来訪者が楽しめる空間が形成されている 15．身近な公園や緑地が整備されている	**満足度：高　重要度：低** 2．住宅環境や公営住宅が整備されている 5．適度な農地があり、うるおいのある空間を形成している 9．道路が整備され、都市間をスムーズに移動できている 12．市街地や主要施設周辺に駐車場が適切に配置されている 13．市街地や主要施設周辺に駐輪場が適切に配置されている 16．住宅の庭や道路などのまちかどや公園等の緑化が進んでいる

（各項目の点数化について）
満足度は、項目ごとに「満足」を＋２点、「やや満足」を＋１点、「やや不満」を－１点、「不満」を－２点とし、重要度は、項目ごとに「重要」を＋２点、「やや重要」を＋１点、「あまり重要ではない」を－１点、「重要ではない」を－２点とし、各項目についての満足度と重要度それぞれを点数化したうえで、全項目の平均値を評価軸として、散布図を作成

（３）まちづくりの課題

南部地域の現況調査における地域特性や市民意向調査による地域のニーズなどを踏まえ、まちづくりの課題を以下のとおり整理します。

≪土地利用≫

布袋駅周辺などの利便性の高い地域への居住の誘導

施行中の鉄道高架化事業や土地区画整理事業の進捗により、布袋駅周辺の地域は移動利便性が高い住宅地となるため、子育て世代をはじめとした新たな地域住民の居住促進に向け、土地利用の転換によるさらなる居住の誘導が必要となっています。

既存ストックを活用した居住の誘導

市街化区域内の一部の地域では農地などが残存しており、特に鉄道駅やバス停周辺の利便性の高い地域における農地などについては、宅地等の都市的な土地利用への転換が望ましいと考えられます。

交通ネットワークを活かした新たな産業地の形成

本市の活力となる雇用の場の創出に向けて、一宮市、小牧市及び春日井市などの広域を結ぶ(都)北尾張中央道や小牧インターチェンジに近い優れた地域特性を活かし、新たな産業振興に向けた土地利用の転換を図る必要があります。

≪施設整備≫

地域の生活を支え、にぎわいと交流をもたらす拠点の形成

鉄道高架化事業の進捗とあわせ、本市の南玄関としての魅力的な拠点の形成に向け、効率的かつ効果的な複合サービスの提供やにぎわいと交流をもたらすための魅力的な交流空間の創出を図る必要があります。

生活・産業を支える交通基盤の整備

通勤・通学の流動が多い地域特性を有することから、布袋駅周辺の鉄道高架化事業の進捗とあわせ、駅周辺の道路基盤や利便性の高い乗換え環境などの確保に向けた交通基盤の充実を図る必要があります。

また、布袋駅から発着する路線バスが運行し、いこまいＣＡＲでその他の地域をカバーしている状況であることから、今後も公共交通サービスの維持確保を図る必要があります。

身近にうるおいと憩いを提供できる交流空間の形成

子育て世代に対する遊び場の提供や健康志向の高まりによる公園に対するニーズの多様化への対応に向け、既存公園の利用促進や身近な公園緑地等の整備を検討することなどが必要となります。

安心して学べる環境づくり

住みたくなる環境の提供のためには、安心して子育てができ、子どもたちが安心して学べる環境の充実が必要となります。そのため、子育て支援施設や教育施設の充実及び通学環境の安全性を確保するほか、子どもだけでなく多様な世代が学習できる環境の創出が必要となります。

«自然環境及び都市環境・都市景観»

風土と趣きが感じられる空間の形成

社寺や史跡などの歴史資源、農地、公園緑地等は、地域の歴史と文化を映し出す貴重な地域資源となっているため、今後も地域ニーズを踏まえたうえで、それらを身近に感じられる空間の形成や、過去から受け継がれる景色の保全に向けた取り組みが必要となります。

«都市防災»

安心・安全な居住環境の提供

一部の地域において豪雨時に浸水被害を受けた実績があることから、常態化しつつある局地的大雨や集中豪雨による浸水被害を軽減するためにも、河川改修などの被害軽減に向けた基盤整備を図っていくことが必要となります。

（４）まちづくりの方針

南部地域における、まちづくりの方針を以下のとおり整理します。

１）まちづくり基本目標

❖地域の歴史性と調和しながら新たなにぎわいと産業を創出していくまちづくり❖

地域の中心に位置する布袋駅周辺は、鉄道高架化事業に伴う交通環境の円滑化を活かし、本市の南玄関としてふさわしい魅力を創出するため、新たな拠点施設の整備などの都市機能の充実と、子育て世代をはじめとした新たな住民の居住促進や既存の居住環境の充実をめざします。

また、小牧インターチェンジに近い強みを活かし、本市の活力となる産業基盤の強化をめざし、布袋地区のまちなかに残る蔵や町屋などの歴史ある建物や織田信長にゆかりのある歴史・文化の資源の保全に努め、将来へ引き継ぐことをめざします。

２）分野別の方針

①土地利用の方針

◇布袋駅周辺については、鉄道高架化事業や土地区画整理事業の進捗とあわせ、市の南部地域の新たな拠点施設となる布袋駅東複合公共施設を中心として、都市機能を集積し、新たな近隣商業地の形成を図ります。

◇布袋駅東側の市街化調整区域については、市街化区域への編入を推進し、駅を中心とした利便性の高く良好な居住空間の創出を図ります。特に駅前は、江南市の南玄関としてふさわしい土地の有効活用を図ります。

◇産業軸である（都)愛岐南北線及び(都)豊田岩倉線沿道の周辺の区域については、無秩序な開発を防ぎ、新たな工業地の配置を検討します。

◇五条川沿いに位置する尾北自然歩道は、周辺都市につながる広域的な健康・レクリエーションの場として、環境の保全に努めるとともに、機能の維持及び活用を図ります。

②施設整備の方針

【道路・公共交通等の方針】

◇尾張都市計画区域の一宮市、小牧市、春日井市などの主要都市を相互に結ぶ広域道路網の役割を担うよう、(都)北尾張中央道の４車線化整備を促進します。

◇幹線道路である(都)豊田岩倉線の整備を推進します。

◇地域の円滑な交通処理や良好な環境を形成するため、補助幹線道路である（都)布袋本町通線は整備を推進し、(都)布袋駅線の整備を促進します。

◇自転車・歩行者専用道路となる(都)布袋駅西通線の整備を推進します。

◇布袋駅周辺では、駅前広場及び駅へのアクセス道路となる(都)江南通南線について、交通結節点としての機能強化を図るための整備を推進します。

◇踏切渋滞、踏切事故の問題を解消するため、愛知県など関係機関と連携を図り、布袋駅付近の鉄道高架化事業を推進し、布袋駅にはバリアフリー法に対応したエレベーターのほか、利便性向上を図るためエスカレーターの整備を推進します。

◇布袋駅から発着する路線バスは、鉄道と連携し、中心拠点である江南駅を結ぶ路線を中心として、運行サービスの維持確保を図ります。また、路線バスでカバーできない地域については、いこまいＣＡＲにより市内全域を移動できる環境を維持確保します。

【公園緑地等の方針】

◇公園緑地等は、生産緑地地区やまちなかの低未利用地の活用などにより、一定以上の面積が確保できる場合には、人口密度が高いにもかかわらず身近に公園緑地等が少ない地域を中心に地域バランスのとれた適切な配置・整備を検討し、地域南部に位置する久昌寺公園は活用の推進を検討します。

◇五条川沿いに位置する尾北自然歩道は、歩道と桜並木の保全に努めるとともに、利用の促進を図ります。

【市街地整備の方針】

◇布袋駅周辺は、鉄道高架化事業や土地区画整理事業の進捗とあわせ、都市計画道路や公園などの必要な基盤整備を推進し、本市の南玄関にふさわしい市街地の形成を図ります。

◇鉄道の高架化区間となる(都)北尾張中央道や(都)布袋駅線の周辺の地域では、東西のまちの一体化を推進するとともに良好な市街地・生活環境の形成に向けた検討を進めます。

◇駅東側については、駅周辺の立地ポテンシャルを活かした魅力的な宅地供給のほか、新たなにぎわい・交流の創出に向けて民間活力を導入した複合公共施設の整備を推進します。

◇(都)豊田岩倉線の沿線など利便性の高い地域については、今後の本市の活力を向上するために、周辺環境と調和して、産業用地の確保を図ります。

【河川の方針】

◇県が管理している青木川、五条川の整備を促進します。

【公共公益施設の方針】

◇布袋駅東地区には、民間活力を導入した新たなにぎわいや交流を創出するために図書館や保健センターなどを備えた複合公共施設の整備を図ります。新しく整備する図書館については、市の特性にあわせて充実を図るため、規模や内容の検討などを踏まえ、より多くの市民に愛され利用されるように整備を図ります。

③自然環境の保全及び都市環境形成の方針

◇般若寺や龍神社をはじめとする社寺林は、地域の貴重な自然資源及び景観資源であることから、社寺などと一体的な保全に努めます。

◇緑豊かで心が安らぐ水辺を創出する青木川や五条川の河川沿いの緑は、水と緑のネットワークとして適切な維持管理を行います。

◇久昌寺公園をはじめとする公園緑地等に加え、道路及び公共施設などの緑化を推進するとともに、市民や事業者が取り組む緑化活動への支援を推進し、民有地緑化の促進を図ることで、緑豊かでゆとりとうるおいのある都市環境の形成に努めます。

④都市景観形成の方針

◇五条川の桜並木については、本市の郷土景観であるため、関係機関と協議しながら定期的な剪定や消毒などの維持管理に努めます。
◇織田信長の室であった「生駒の方」にゆかりのある地域であることから、生駒屋敷跡や般若寺などの点在する歴史的な資源をつなぐ「ふるさと江南歴史散策道」を中心に、文化・歴史的景観の維持に努めます。
◇布袋地区のまちなかに残る蔵や町家などの文化・歴史の資源を活かした景観形成に努めます。
◇布袋駅周辺では、街路樹などによる道路景観の形成や、駅前で実施する花いっぱい運動等により景観の向上に努め、本市の中心拠点にふさわしい都市的な景観形成を推進します。

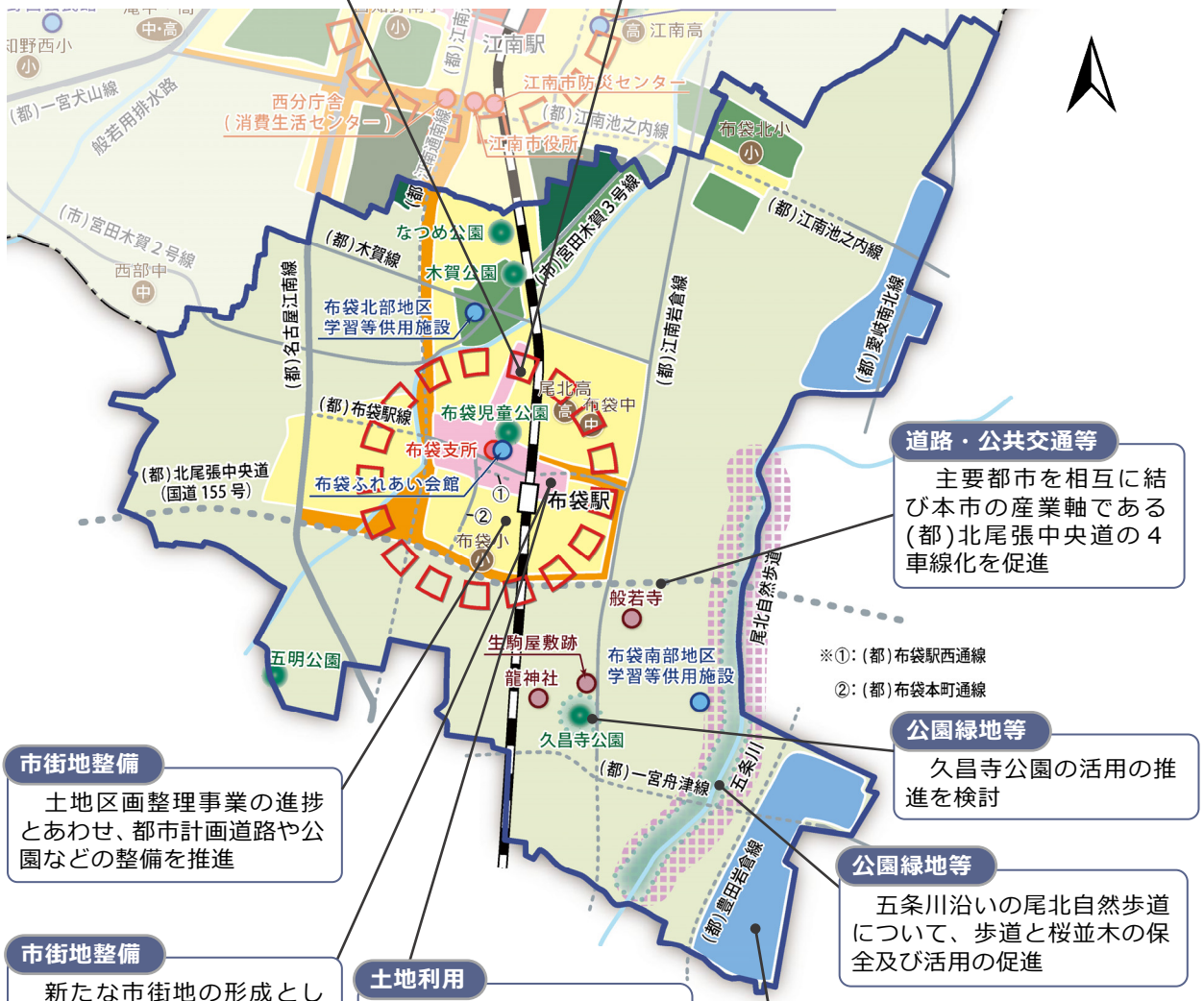
⑤都市防災の方針

◇(都)名古屋江南線などの緊急輸送道路及び優先的に通行を確保する道路に指定されている道路沿道の建築物については、災害時における避難路の確保に向けて、耐震化を促進します。
◇地域南部で多く発生している市街地の浸水被害の抑制に向けて、河川改修や雨水貯留浸透施設の整備を促進するとともに、保水機能を有する田園集落地の一団の農地の保全に努めます。
◇地域南部において鉄道高架により踏切が無くなり緊急車両などの進入が困難な区域は、道路の整備を検討します。

3）まちづくり方針図

道路・公共交通等
駅前広場及び駅へのアクセス道路など、交通結節点としての機能強化を図るための整備を推進

道路・公共交通等
補助幹線道路である(都)布袋駅線の整備を促進、(都)布袋本町通線の整備を推進



道路・公共交通等
主要都市を相互に結び本市の産業軸である(都)北尾張中央道の４車線化を促進

※①：(都)布袋駅西通線
②：(都)布袋本町通線

公園緑地等
久昌寺公園の活用の推進を検討

市街地整備
土地区画整理事業の進捗とあわせ、都市計画道路や公園などの整備を推進

公園緑地等
五条川沿いの尾北自然歩道について、歩道と桜並木の保全及び活用の促進

市街地整備
新たな市街地の形成として、魅力的な宅地供給、必要な基盤整備、複合公共施設整備の推進

土地利用
布袋駅東側については、新たな住宅地及び近隣商業地の土地利用を形成

土地利用
新たな工業地の配置を検討

凡　例					
	中心拠点		田園集落地		歴史資源等
	低層住宅地		レクリエーションエリア		国道・主要地方道 ※点線は未整備区間
	中高層住宅地				
	一般住宅地		公園		一般県道・市道 ※点線は未整備区間
	近隣商業地		文教施設		鉄道・駅
	工業地		行政サービス施設		河川・水路
	沿道複合地	小 中 高	教育施設		